

**配偶者等からの暴力に関する調査
報告書**

奈良県

令和5年2月

～ 目 次 ～

I. 調査実施の概要	1
II. 回答者特性	2
III. 調査結果	4
1. 配偶者等からの暴力に関する意識について	5
2. 配偶者等からの暴力について	15
【被害経験について】	15
【加害経験について】	25
3. 友人や家族などからのDVに関する相談について	30
4. その他	34
IV. 調査票	37

I. 調査実施の概要

1. 調査目的

令和4年度以降を計画期間とする「(仮称)奈良県配偶者等からの暴力防止及び被害者支援基本計画(第5次)(以下、DV計画という。)」を策定するにあたり、県民のDVに関する意識、被害等の経験、ニーズ等を把握し分析することで、課題解決のための具体的な取組みを考える際の参考とするために実施した。

2. 調査方法

郵送による配布・回収

3. 調査期間

2022年10月21日(金)～2022年11月7日(月)

4. 回収状況

配布数 : 3,500通

回収数 : 957通(27.3%)

有効回答数 : 953名(27.2%)

5. 調査項目

- ①配偶者等からの暴力に関する意識について
- ②配偶者等からの暴力について
- ③友人や家族などからのDVに関する相談について
- ④その他
- ⑤属性

6. 報告書の見方

①質問種別

SA: 単一回答

MA: 複数回答

FA: 自由記述

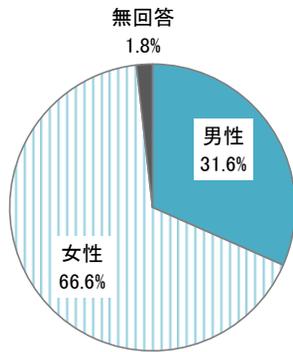
②属性別のクロス集計分析の注意点

属性別のクロス集計分析におけるサンプル誤差は、50サンプルで最大13.9%、30サンプルで最大17.9%発生する。

この誤差を考慮して、30サンプル未満の属性の回答比率については参考値として扱う。

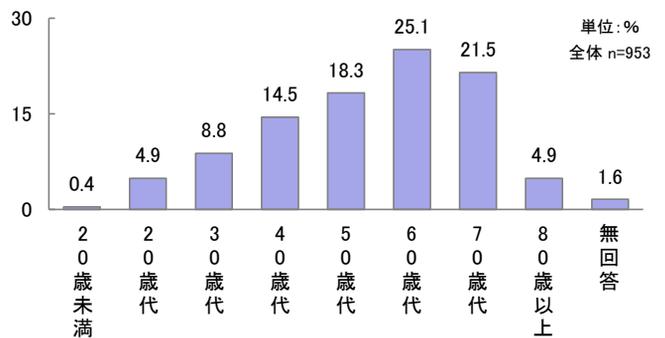
Ⅱ. 回答者特性

問33. あなたの性別についてお答えください。(SA)



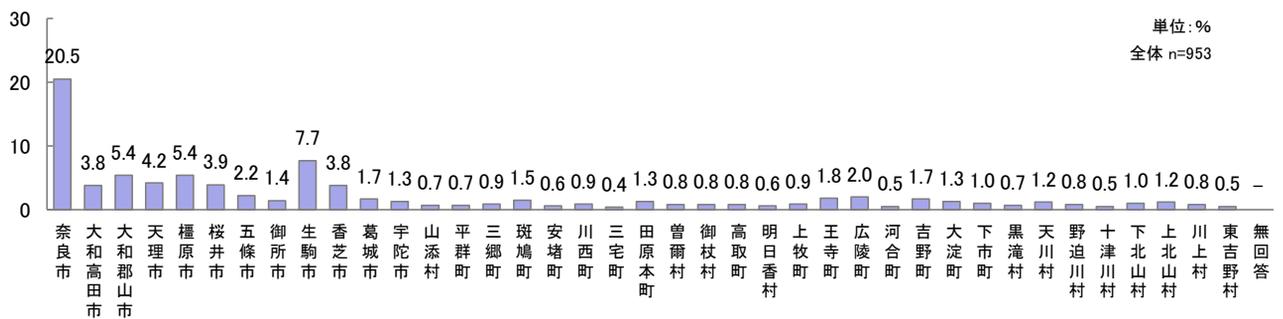
全体 n=953

問34. あなたは、令和4年10月1日現在の時点でおいくつですか。(SA)



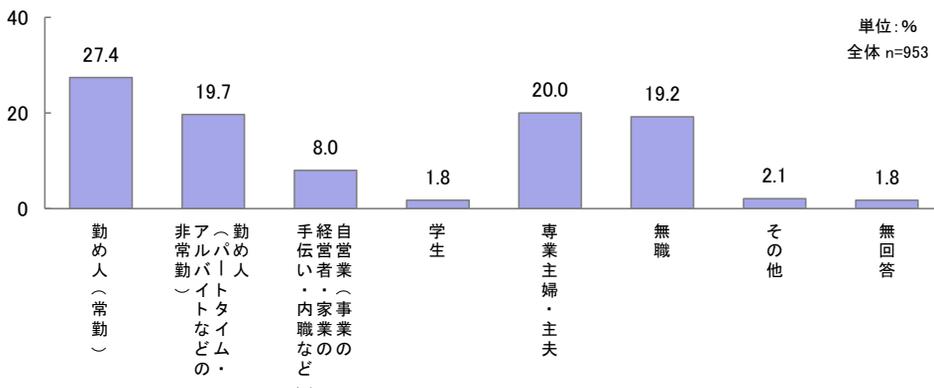
単位: %
全体 n=953

問35. あなたがお住まいの市町村名についてお答えください。(SA)



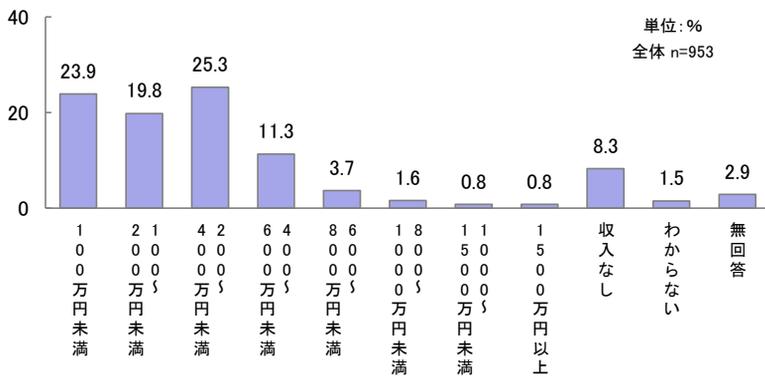
単位: %
全体 n=953

問36. あなたの職業についてお答えください。(SA)

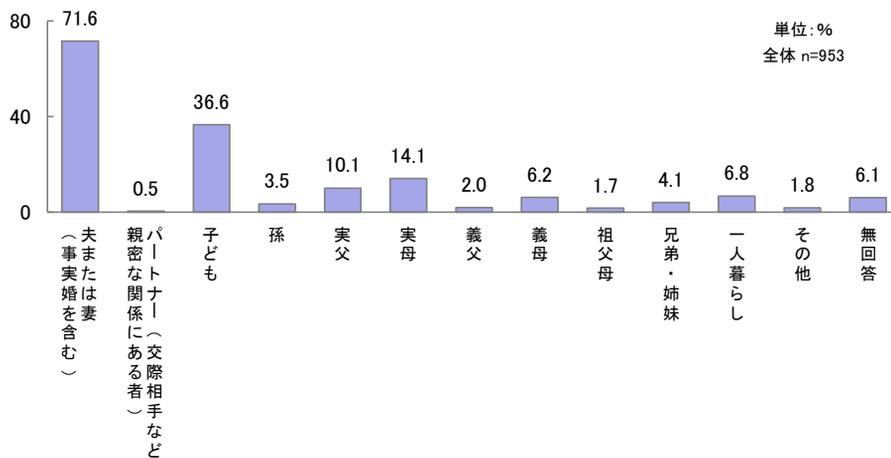


単位: %
全体 n=953

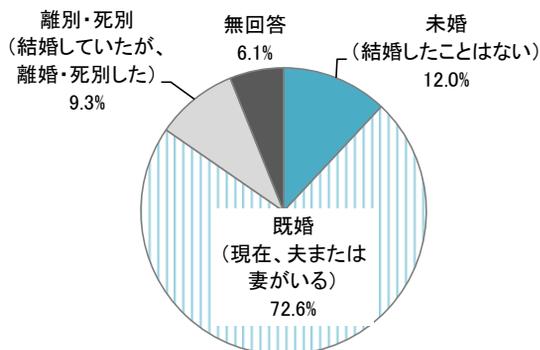
問37. あなたご自身の令和3年中(令和3年1月1日～12月31日)の年間収入(税込)はいくらですか。年金や資産収入などの収入も含めてください。(SA)



問38. あなたと同居している人は誰ですか。あなたからみた続柄を選んでください。(MA)



問39. あなたは、現在、結婚していますか。(SA)



全体 n=953

Ⅲ. 調査結果

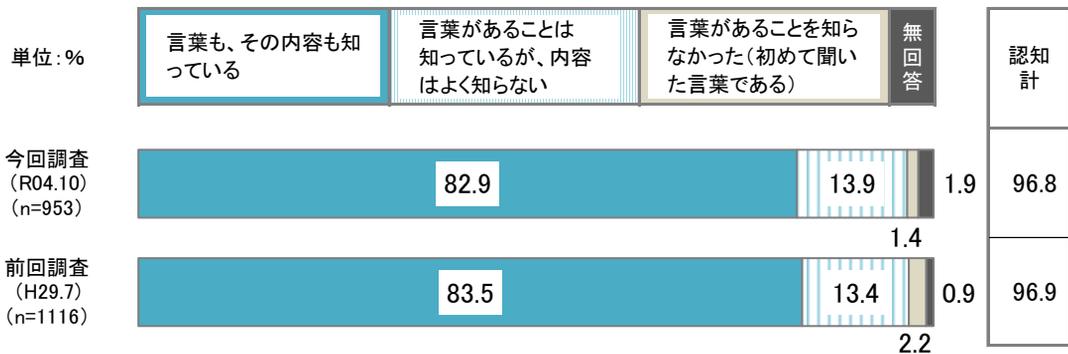
1. 配偶者等からの暴力に関する意識について

問1. あなたは、「配偶者等からの暴力」(以下、「DV:ドメスティック・バイオレンス」)について、知っていますか。(SA)

「配偶者等からの暴力」(以下、「DV:ドメスティック・バイオレンス」)という言葉の認知は96.8%、内容まで認知しているのは82.9%である。

50歳代以下はほとんどの人が内容まで認知しているものの、60代以上となると認知レベルは低下する傾向がみられる。

- 「配偶者等からの暴力」(以下、「DV:ドメスティック・バイオレンス」)について、「言葉も、その内容も知っている」のは82.9%で、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」(13.9%)も含めると、96.8%が言葉の認知はしており、「言葉があることを知らなかった(初めて聞いた言葉である)」は1.4%とわずかである。前回調査と比べると言葉の認知は横ばいである。
- 性別でみると、女性は男性より「言葉も、その内容も知っている」の比率が高い。
- 年齢別でみると、50歳代以下ではいずれの年代も「言葉も、その内容も知っている」が90%程度であるのに対し、60代から低下傾向がみられ、80歳代では70.2%となっている。
- 被害経験別でみると、被害経験あり層は被害経験なし層と比べて言葉も、その内容も知っている」の比率が高い。



		サンプル数	言葉も、その内容も知っている	言葉があることは知っているが、内容はよく知らない	言葉があることを知らなかった(初めて聞いた言葉である)	無回答	認知計
全体		953	82.9	13.9	1.4	1.9	96.8
性別	男性	301	79.1	19.3	1.0	0.7	98.4
	女性	635	85.0	11.2	1.4	2.4	96.2
年齢別	20歳代以下	51	90.2	9.8	-	-	100.0
	30歳代	84	92.9	7.1	-	-	100.0
	40歳代	138	89.1	8.0	-	2.9	97.1
	50歳代	174	89.1	8.6	0.6	1.7	97.7
	60歳代	239	81.2	15.9	0.8	2.1	97.1
	70歳代	205	73.2	20.5	3.9	2.4	93.7
	80歳以上	47	70.2	27.7	2.1	-	97.9
被害経験の有無別	被害経験あり	209	90.0	7.7	1.0	1.4	97.7
	被害経験なし	725	81.5	15.4	1.4	1.7	96.9
地域別	奈良市	195	82.1	15.4	0.5	2.1	97.5
	中央こども家庭相談センター管轄地域	297	83.5	13.1	1.7	1.7	96.6
	高田こども家庭相談センター管轄地域	340	83.8	12.9	1.5	1.8	96.7

※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

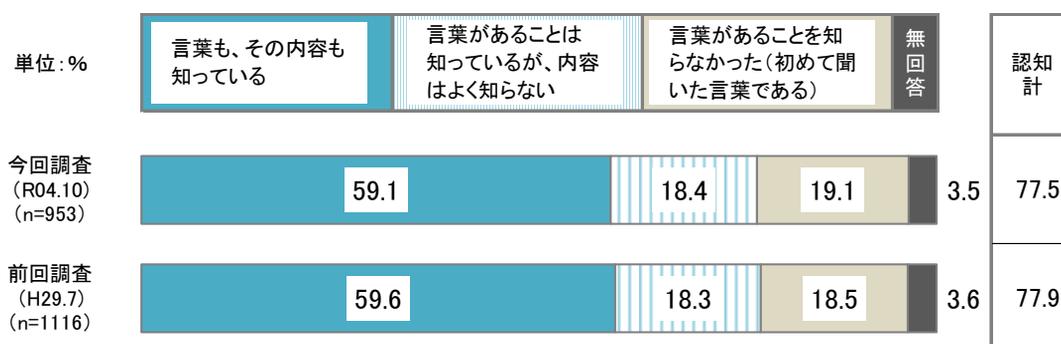
単位:%

問2. あなたは、「交際相手からの暴力」(以下、「デートDV」)について、知っていますか。(SA)

「交際相手からの暴力」(以下、「デートDV」)という言葉の認知は77.5%、内容まで認知しているのは59.1%。「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が18.4%見られ、DVと比べると言葉、内容ともに認知度は高くない。

属性別の傾向は概ねDVと同様の傾向だが、20歳代以下での認知度が特に高い点が特徴的である。

- 「交際相手からの暴力」(以下、「デートDV」)について、「言葉も、その内容も知っている」のは59.1%で、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」(18.4%)も含めると、77.5%が言葉の認知はしており、「言葉があることを知らなかった(初めて聞いた言葉である)」は19.1%である。
- 性別でみると、女性は男性より「言葉も、その内容も知っている」の比率が高い。
- 年齢別でみると、70歳代までは概ね年齢が若いほど「言葉も、その内容も知っている」の比率が高くなる傾向が見られ、20歳代以下では72.5%と高く、言葉の認知も含めると90.1%と非常に高くなっている。
- 被害経験別でみると、被害経験あり層は被害経験なし層と比べて言葉も、その内容も知っている」が高い。



		サンプル数	言葉も知っている、その内容も	は知言葉はよつが聞ら言	は知言葉はよつが聞ら言	は知言葉はよつが聞ら言	無回答	計認知
全 体		953	59.1	18.4	19.1	3.5	77.5	
性別	男性	301	52.8	22.3	23.9	1.0	75.1	
	女性	635	62.0	16.7	16.9	4.4	78.7	
年齢別	20歳代以下	51	72.5	17.6	9.8	-	90.1	
	30歳代	84	67.9	15.5	16.7	-	83.4	
	40歳代	138	64.5	11.6	20.3	3.6	76.1	
	50歳代	174	64.9	15.5	17.2	2.3	80.4	
	60歳代	239	54.0	22.6	18.8	4.6	76.6	
	70歳代	205	49.3	21.0	25.4	4.4	70.3	
	80歳以上	47	61.7	23.4	10.6	4.3	85.1	
被害経験の有無別	被害経験あり	209	64.6	15.3	16.7	3.3	79.9	
	被害経験なし	725	57.7	19.6	19.6	3.2	77.3	
地域別	奈良市	195	54.9	20.0	22.6	2.6	74.9	
	中央こども家庭相談センター管轄地域	297	59.6	18.2	19.2	3.0	77.8	
	高田こども家庭相談センター管轄地域	340	62.1	16.5	17.4	4.1	78.6	

※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

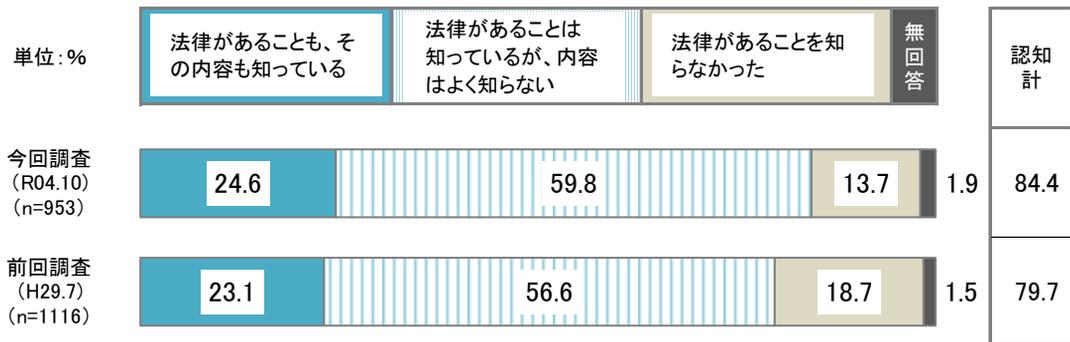
単位:%

問3. あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（いわゆるDV防止法）」を知っていますか。(SA)

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（いわゆるDV防止法）」は84.4%が認知はしているが、内容まで認知しているのは24.6%にとどまっている。

DV、デートDVの認知が高い30代以下の若い層における認知度が低くなっている。

- 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（いわゆるDV防止法）」について、「法律があることも、その内容も知っている」のは24.6%、「法律があることは知っているが、内容はよく知らない」は59.8%で法律自体の認知は84.4%で、「法律があることを知らなかった」のは13.7%である。
- 前回調査と比べると「認知計」が4.7ポイント上昇している。
- 年齢別で見ると30歳代以下では「法律があることを知らなかった」がいずれも20%台と高い。
- 地域別で見ると高田こども家庭相談センター管轄地域では認知計が87.4%と他のエリアと比べて高い。



		サンプル数	その法律の内容も知っている	は法律がよく知らないが、内容は知っている	法律があることを知らなかった	無回答	計認知
全体		953	24.6	59.8	13.7	1.9	84.4
性別	男性	301	24.3	61.1	14.0	0.7	85.4
	女性	635	24.6	59.2	13.9	2.4	83.8
年齢別	20歳代以下	51	19.6	60.8	19.6	-	80.4
	30歳代	84	23.8	52.4	23.8	-	76.2
	40歳代	138	20.3	61.6	15.2	2.9	81.9
	50歳代	174	27.6	59.2	10.9	2.3	86.8
	60歳代	239	21.8	64.9	11.7	1.7	86.7
	70歳代	205	28.8	56.6	12.2	2.4	85.4
被害経験の有無別	80歳以上	47	25.5	59.6	14.9	-	85.1
	被害経験あり	209	29.2	54.5	14.4	1.9	83.7
	被害経験なし	725	23.2	61.7	13.5	1.7	84.9
地域別	奈良市	195	20.0	63.1	15.4	1.5	83.1
	中央こども家庭相談センター管轄地域	297	25.6	56.6	16.2	1.7	82.2
	高田こども家庭相談センター管轄地域	340	26.2	61.2	10.6	2.1	87.4

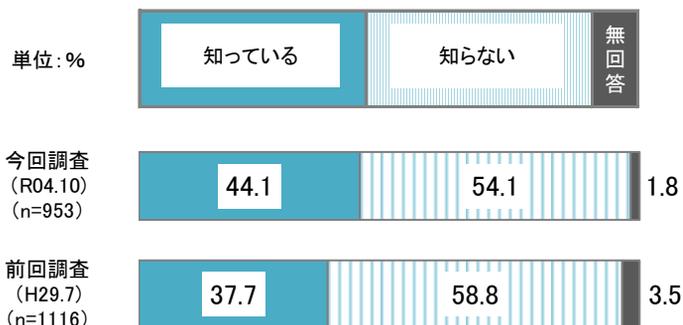
※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

単位：%

問4. あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口を知っていますか。(SA)

相談窓口の認知度は44.1%で前回調査から6.4ポイント上昇しているものの、被害経験がある層でも半数近くが「知らない」としている。

- 相談窓口について「知っている」のは44.1%、「知らない」のは54.1%である。
- 前回調査と比べると「知っている」は6.4ポイント上昇している。
- 性別で見ると、女性は男性より「知っている」比率が高くなっている。
- 被害経験の有無別で見ると、被害経験あり層でも「知らない」が47.8%見られる。



		サンプル数	知っている	知らない	無回答
全 体		953	44.1	54.1	1.8
性別	男性	301	36.9	61.5	1.7
	女性	635	47.4	50.7	1.9
年齢別	20歳代以下	51	43.1	54.9	2.0
	30歳代	84	38.1	61.9	-
	40歳代	138	46.4	52.9	0.7
	50歳代	174	48.3	50.6	1.1
	60歳代	239	47.3	50.6	2.1
	70歳代	205	39.0	60.0	1.0
	80歳以上	47	38.3	48.9	12.8
被害経験の有無別	被害経験あり	209	50.7	47.8	1.4
	被害経験なし	725	42.2	56.3	1.5
地域別	奈良市	195	44.6	53.8	1.5
	中央こども家庭相談センター管轄地域	297	43.8	54.5	1.7
	高田こども家庭相談センター管轄地域	340	44.4	53.5	2.1

※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

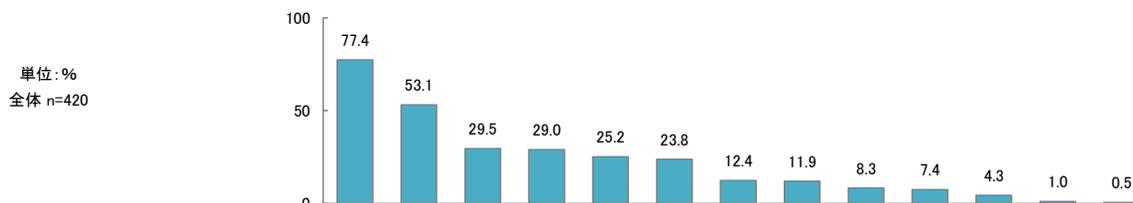
単位：%

問5. どの窓口を知っていますか。(MA)【問4で「1. 知っている」と回答した方】

相談窓口の認知は「奈良県警察署」(77.4%)、「市町村窓口」(53.1%)、「奈良県女性センター」(29.5%)が上位となっている。

被害経験がある層において「奈良県警察署」、「市町村窓口」、「奈良県中央子ども家庭相談センター」、「奈良県高田子ども家庭相談センター」の認知が被害経験がない層よりも低くなっている。

- 知っている窓口は「奈良県警察署」(77.4%)が最も高く、「市町村窓口」(53.1%)、「奈良県女性センター」(29.5%)が続いている。
- 被害経験の有無別で見ると、被害経験あり層では「奈良県女性センター」、「女性の 인권ホットライン(奈良地方方法務局)」の比率が全体と比べて高いものの「奈良県警察署」、「市町村窓口」、「奈良県中央子ども家庭相談センター(配偶者暴力相談支援センター)」、「奈良県高田子ども家庭相談センター」などは被害経験なし層と比べて5ポイント以上低くなっている。



		サンプル数	奈良県警察署	市町村窓口	奈良県女性センター	女性の 인권ホットライン (奈良地方方法務局)	社会福祉法人奈良のちの電話協会	奈良県中央子ども家庭相談センター(配偶者暴力相談支援センター)	奈良県高田子ども家庭相談センター	性暴力被害者サポートセンター (NARRAハート)	DV相談+(プラス)	被害者支援センター	公益社団法人なら犯罪なら人権情報センター	特定非営利活動法人	その他	無回答
全体		420	77.4	53.1	29.5	29.0	25.2	23.8	12.4	11.9	8.3	7.4	4.3	1.0	0.5	
性別	男性	111	82.0	59.5	19.8	18.9	21.6	26.1	18.0	10.8	9.9	9.9	5.4	1.8	0.9	
	女性	301	75.4	50.5	33.6	33.6	26.2	23.6	10.6	12.3	7.6	6.6	4.0	0.7	0.3	
年齢別	20歳代以下	22	68.2	31.8	13.6	36.4	13.6	18.2	4.5	22.7	-	9.1	4.5	4.5	-	
	30歳代	32	71.9	34.4	15.6	34.4	6.3	12.5	9.4	12.5	3.1	-	-	6.3	-	
	40歳代	64	76.6	45.3	23.4	31.3	9.4	18.8	15.6	12.5	4.7	6.3	3.1	1.6	-	
	50歳代	84	75.0	54.8	39.3	35.7	27.4	22.6	11.9	13.1	8.3	4.8	3.6	-	-	
	60歳代	113	82.3	58.4	28.3	26.5	38.1	24.8	10.6	12.4	8.8	10.6	3.5	-	0.9	
	70歳代	80	81.3	60.0	38.8	23.8	25.0	32.5	17.5	5.0	13.8	7.5	7.5	-	-	
	80歳以上	18	61.1	66.7	22.2	22.2	33.3	38.9	11.1	16.7	11.1	16.7	11.1	-	5.6	
被害経験の有無別	被害経験あり	106	71.7	49.1	34.9	34.9	27.4	17.9	8.5	14.2	7.5	5.7	7.5	1.9	0.7	
	被害経験なし	306	80.1	55.2	27.1	27.1	24.2	26.1	14.1	11.4	8.8	8.2	3.3	0.7	0.7	
地域別	奈良市	87	81.6	41.4	36.8	29.9	23.0	20.7	4.6	8.0	3.4	8.0	5.7	1.1	1.1	
	中央子ども家庭相談センター管轄地域	130	73.1	51.5	27.7	31.5	29.2	20.0	6.2	16.9	13.1	6.9	3.8	0.8	0.8	
	高田子ども家庭相談センター管轄地域	151	76.2	58.3	28.5	29.8	19.9	27.2	21.9	10.6	7.9	6.6	2.6	1.3	-	

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

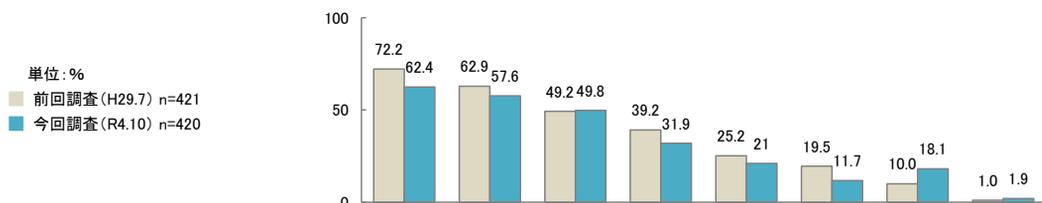
単位: %

問6. 相談した際に受けられる支援を知っていますか。(MA)【問4で「1. 知っている」と回答した方】

支援内容の認知は「相談又は相談機関の紹介」(62.4%)、「被害者および同伴者の緊急時における安全の確保及び一時保護」(57.6%)、「カウンセリング」(49.8%)が上位である。
前回と比べると支援内容の認知は低下している。

被害経験があるにも関わらず、ない層と比べて相談窓口や、支援内容の認知が低い点は課題と言える。

- 支援内容の認知は、「相談又は相談機関の紹介」(62.4%)が最も高く、「被害者および同伴者の緊急時における安全の確保及び一時保護」(57.6%)、「カウンセリング」(49.8%)が続いている。
- 前回調査と比べると「カウンセリング」以外の支援の認知度は低下している。
- 年齢別でみると、40代は「知らない」が28.1%と他の年代と比べて高くなっている。
- 被害経験の有無別でみると、被害経験がある層はない層より「知らない」が5.0ポイント高くなっている。
- 地域別でみると、奈良市は他の地域と比べて「知らない」が高くなっている。



		サンプル数	紹介 相談 又は 相談 機関 の	及 び 一 時 お け る 安 全 の 保 護	カ ウ ン セ リ ン グ	つ る 被 害 者 を 居 住 さ せ 保 護 す る 情 報 提 供 な ど	情 報 提 供 な ど を 促 進 す る こ と を	保 護 命 令 制 度 の 利 用 に つ い て の 情 報 提 供 な ど	知 ら な い	無 回 答
全 体		420	62.4	57.6	49.8	31.9	21.0	11.7	18.1	1.9
性別	男性	111	64.9	54.1	55.0	27.0	17.1	11.7	13.5	2.7
	女性	301	62.1	60.1	48.2	33.9	22.9	12.0	19.6	1.3
年齢別	20歳代以下	22	36.4	36.4	50.0	13.6	18.2	4.5	36.4	-
	30歳代	32	56.3	59.4	46.9	18.8	15.6	15.6	21.9	-
	40歳代	64	59.4	56.3	45.3	29.7	21.9	10.9	28.1	-
	50歳代	84	59.5	61.9	51.2	35.7	20.2	14.3	19.0	1.2
	60歳代	113	70.8	61.1	54.9	38.1	23.9	12.4	12.4	0.9
	70歳代	80	68.8	62.5	47.5	33.8	23.8	8.8	12.5	3.8
	80歳以上	18	55.6	38.9	44.4	22.2	11.1	16.7	11.1	11.1
被害経験の有無別	被害経験あり	106	57.5	53.8	47.2	33.0	16.0	14.2	21.7	1.9
	被害経験なし	306	64.7	59.2	51.0	31.4	22.5	10.8	16.7	1.3
地域別	奈良市	87	55.2	55.2	42.5	28.7	13.8	10.3	25.3	3.4
	中央こども家庭相談センター管轄地域	130	60.0	61.5	49.2	34.6	21.5	13.8	21.5	0.8
	高田こども家庭相談センター管轄地域	151	67.5	57.6	51.7	31.1	23.2	8.6	13.2	0.7

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

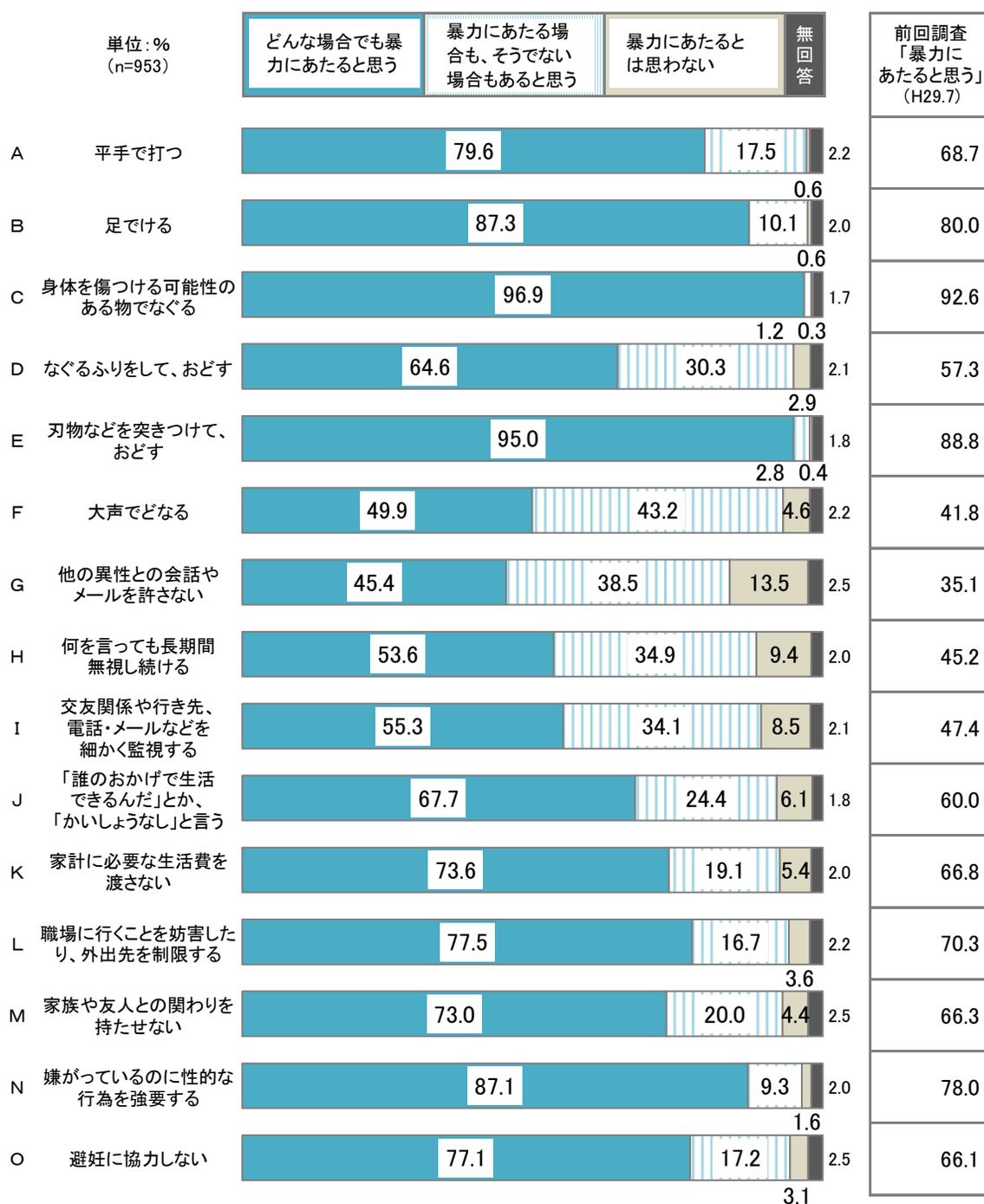
単位: %

問7. あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを「暴力」だと思いますか。(SA)

「どんな場合でも暴力にあたると思う」行為は「身体を傷つける可能性のある物でなくる」、「刃物などを突きつけて、おどす」がいずれも95%以上で上位である。

前回調査と比べると、いずれの行為も暴力にあたるという認識は上昇している。

- 「どんな場合でも暴力にあたると思う」行為は「身体を傷つける可能性のある物でなくる」(96.9%)が最も高く、「刃物などを突きつけて、おどす」(95.0%)も同程度が高い。一方、「他の異性との会話やメールを許さない」(45.4%)、「大声でどなる」(49.9%)は暴力であるという認識が50%未満と低い。
- 前回調査と比べると全ての行為で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の比率は上昇している。



暴力にあたると思うかについて属性別でみると、男性は女性と比べて多くの行為について暴力にあたるという認識が低い。また、50歳代以上から年齢が高くなるほど暴力にあたるという認識が低下する傾向が多くの行為で見られる。

- 性別でみると、男性は女性と比べて「足でける」を除く全ての行為で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の比率が低い。
- 年齢別でみると、20歳代以下と40歳代は「どんな場合でも暴力にあたると思う」行為が他の年代と比べて多い。また、50歳代以上から年齢が高くなるにつれて多くの行為において「どんな場合でも暴力にあたると思う」比率が低くなる傾向がややみられる。
- 被害経験の有無別でみると、被害経験がある層はない層と比べて「職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する」、「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」を「どんな場合でも暴力にあたると思う」比率が高い。
- 年収別でみると、600万円以上の層は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」行為が多い。

※表内は「暴力にあたると思う」スコア

	全体 (n)	性別		年齢別								被害経験の有無別		年収別						地域別		
		男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	被害経験あり	被害経験なし	収入なし	100万円未満	100万円～200万円未満	200万円～400万円未満	400万円～600万円未満	600万円以上	奈良市	中央～管轄も地域相談セ	高田～こども地域相談セ	
		(953)	(301)	(635)	(51)	(84)	(138)	(174)	(239)	(205)	(47)	(209)	(725)	(79)	(228)	(189)	(241)	(108)	(66)	(195)	(297)	(340)
A	平手で打つ	79.6	79.1	80.2	74.5	77.4	81.9	81.6	82.8	78.0	70.2	80.4	80.4	81.0	78.1	82.5	80.1	77.8	86.4	77.4	80.1	80.6
B	足でける	87.3	87.7	87.4	78.4	83.3	88.4	88.5	90.4	87.3	85.1	89.0	87.2	87.3	86.8	88.4	85.5	89.8	93.9	87.2	87.5	87.9
C	身体を傷つける可能性のある物でなぐる	96.9	96.3	97.3	96.1	97.6	97.8	98.3	97.1	97.1	89.4	97.1	97.2	97.5	96.5	96.3	97.5	99.1	97.0	97.9	97.0	95.9
D	なぐるふりをして、おどす	64.6	55.8	68.8	68.6	75.0	81.2	67.2	64.0	52.7	40.4	62.2	65.8	69.6	62.3	64.6	65.6	63.9	69.7	65.6	67.0	62.4
E	刃物などを突きつけて、おどす	95.0	93.4	95.9	90.2	98.8	97.1	96.0	95.8	93.7	87.2	95.7	95.2	93.7	94.7	92.1	97.1	97.2	98.5	97.9	94.3	93.8
F	大声でどなる	49.9	41.2	53.7	43.1	46.4	55.8	52.3	51.0	46.8	42.6	51.2	49.5	50.6	52.2	50.3	47.3	46.3	56.1	49.2	49.8	48.5
G	他の異性との会話やメールを許さない	45.4	37.9	49.3	45.1	39.3	47.1	43.7	49.0	46.8	36.2	43.5	46.2	46.8	47.4	47.1	44.4	41.7	45.5	51.3	45.1	42.9
H	何を言っても長期間無視し続ける	53.6	47.5	57.0	51.0	47.6	58.0	60.9	56.5	50.7	31.9	50.7	54.6	46.8	54.8	59.8	51.5	52.8	63.6	54.4	54.5	50.9
I	交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	55.3	45.5	60.3	49.0	52.4	57.2	55.2	57.7	57.6	44.7	51.7	57.0	57.0	55.7	60.8	52.7	48.1	56.1	58.5	56.6	51.2
J	「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしようなし」と言う	67.7	62.5	70.6	74.5	69.0	71.7	72.4	68.6	62.4	53.2	64.6	68.6	68.4	67.5	69.3	70.1	65.7	71.2	69.7	67.7	65.6
K	家計に必要な生活費を渡さない	73.6	65.1	78.0	78.4	76.2	79.7	75.3	75.7	69.3	53.2	71.3	74.5	74.7	78.9	72.0	69.7	78.7	71.2	74.9	73.7	72.9
L	職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	77.5	73.1	80.0	84.3	75.0	80.4	79.9	80.8	73.2	66.0	71.8	79.6	75.9	77.6	76.7	79.7	78.7	78.8	80.0	78.1	75.6
M	家族や友人との間わりを持たせない	73.0	68.1	75.7	82.4	75.0	81.9	73.6	77.0	64.9	53.2	68.4	74.6	74.7	75.0	70.4	70.5	75.0	81.8	72.8	74.4	71.2
N	嫌がっているのに性的な行為を強要する	87.1	86.7	87.4	92.2	88.1	92.0	89.1	88.7	81.5	76.6	84.2	88.1	87.3	86.4	83.6	88.8	88.9	93.9	88.7	86.5	86.5
O	避妊に協力しない	77.1	71.1	80.5	92.2	84.5	87.0	79.9	78.7	67.3	48.9	73.7	78.3	82.3	74.6	74.1	76.8	82.4	84.8	79.5	77.8	75.3

※ ■ は全体より10ポイント以上、 ■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

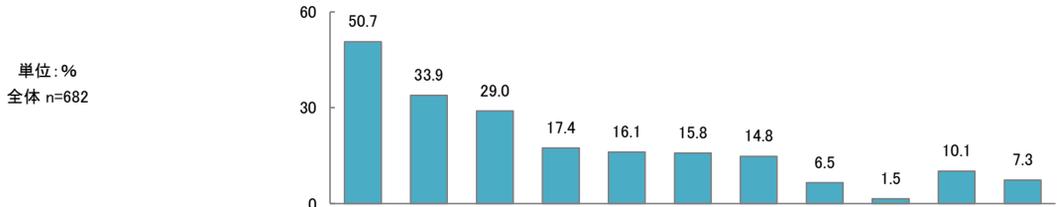
問8. そのように思ったのはなぜですか。(MA)【問7「A～O」のいずれかで「1」「2」と回答した方】

暴力にあたらない、あたらない場合もあるとした理由は、「夫婦喧嘩の範囲だと思うから」(50.7%)、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」(33.9%)、「夫婦間ではよくあることだと思うから」(29.0%)が上位である。

性別でみると男性は女性と比べて、夫婦間であれば問題ないという認識や正当であるという認識が高い。

DV被害経験がある層は「暴力を振るわれた側にも非があったと思うから」という認識が強い。

- 前問の行為が暴力にあたらない、またはあたらない場合もあると回答した理由は、「夫婦喧嘩の範囲だと思うから」が50.7%で最も高く、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」(33.9%)、「夫婦間ではよくあることだと思うから」(29.0%)が続いている。
- 性別でみると、男性は「夫婦喧嘩の範囲だと思うから」、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」、「夫婦間では許されると思うから」が女性に比べて高い。
- 年齢別でみると、70歳代以上の層は「夫婦間ではよくあることだと思うから」「暴力を振るわれた側にも非があったと思うから」が高い。また、30歳代以下では「暴力を振るわれた側にも非があったと思うから」が他の年代と比べて高くなっている。
- 被害経験の有無別でみると、被害経験あり層は、なし層と比べて「暴力を振るわれた側にも非があったと思うから」の比率が高い。



		サンプル数	夫婦喧嘩の範囲だと思うから	相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから	夫婦間ではよくあることだと思うから	暴力を振るわれた側にも非があったと思うから	自分の考えをとおすために必要な場合があると思うから	夫婦間では許されると思うから	動機や交友関係を知るために知りたがるから	愛情表現だと思えるから	ことには従うべきだが、大黒柱の役割から	その他	無回答
全体		682	50.7	33.9	29.0	17.4	16.1	15.8	14.8	6.5	1.5	10.1	7.3
性別	男性	236	54.2	39.8	30.5	17.4	16.1	23.7	13.1	4.7	0.8	10.6	5.5
	女性	435	48.7	30.3	28.0	17.2	15.9	11.0	14.9	7.4	1.8	10.1	8.3
年齢別	20歳代以下	41	41.5	24.4	14.6	17.1	9.8	7.3	9.8	17.1	-	17.1	2.4
	30歳代	63	52.4	23.8	15.9	11.1	12.7	11.1	12.7	14.3	-	14.3	3.2
	40歳代	98	45.9	31.6	10.2	10.2	12.2	6.1	11.2	4.1	-	20.4	5.1
	50歳代	121	51.2	33.9	24.8	15.7	12.4	14.9	18.2	6.6	1.7	13.2	6.6
	60歳代	175	50.9	36.6	33.7	12.6	15.4	14.3	13.1	5.7	1.1	8.0	10.3
	70歳代	137	56.2	41.6	44.5	29.9	24.1	22.6	17.5	4.4	2.9	2.2	7.3
	80歳以上	37	43.2	21.6	45.9	29.7	21.6	40.5	13.5	-	5.4	-	13.5
被害経験の有無別	被害経験あり	152	44.7	32.2	28.9	21.7	15.8	11.2	15.8	5.9	1.3	14.5	4.6
	被害経験なし	516	52.9	34.3	29.3	15.5	16.3	17.1	14.9	6.4	1.6	8.9	7.8
地域別	奈良市	133	62.4	34.6	29.3	18.8	15.8	15.0	16.5	3.0	0.8	6.0	6.8
	中央こども家庭相談センター管轄地域	206	48.5	33.0	26.2	16.5	17.0	15.5	8.7	7.3	1.9	14.1	6.3
	高田こども家庭相談センター管轄地域	255	51.4	35.3	31.0	18.0	15.7	16.5	18.0	7.5	2.0	10.2	6.7

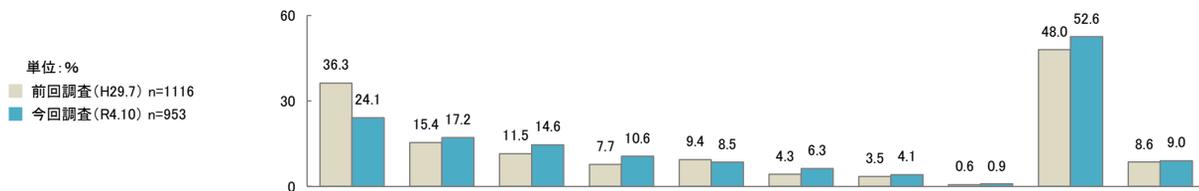
※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

単位: %

問9. 配偶者等からの暴力に対して、予防・対策のために奈良県が取り組んでいることのうち、あなたが知っているものをお答えください。(MA)

DV予防・対策の奈良県の取り組みについては、52.6%が「知らない」としており、特に40歳代以下の認知度が低い。認知されている取り組みは「奈良県中央子ども家庭相談センター（配偶者暴力相談支援センター）、奈良県高田子ども家庭相談センター、奈良県女性センターでの相談」が24.1%で最も高いが前回調査時と比べて認知度は低下している。

- 奈良県の取り組みで認知されているのは、「奈良県中央子ども家庭相談センター（配偶者暴力相談支援センター）、奈良県高田子ども家庭相談センター、奈良県女性センターでの相談」（24.1%）、「センター等でのDVからの避難のための支援」（17.2%）、「DV被害者やその子ども等に対する心理的ケア」（14.6%）が上位となっているが、「知らない」が52.6%見られる。前回調査と比べると、「奈良県中央子ども家庭相談センター（配偶者暴力相談支援センター）、奈良県高田子ども家庭相談センター、奈良県女性センターでの相談」の認知は12.2ポイント低下している。
- 年齢別で見ると、40歳代以下は「知らない」の比率が高くなっている。



		サンプル数	奈良県中央子ども家庭相談センター（配偶者暴力相談支援センター）、奈良県高田子ども家庭相談センターでの相談	避難のためのDVからの支援	DV被害者やその子ども等に対する心理的ケア	女性への暴力防止に向けたセミナー（※1）	中央子ども家庭相談センターでの支援	DV相談窓口周知用カードの設置	高校生等を対象にしたDV予防啓発の事前授業	その他	知らない	無回答
全体		953	24.1	17.2	14.6	10.6	8.5	6.3	4.1	0.9	52.6	9.0
性別	男性	301	23.9	14.6	13.3	8.6	9.6	3.7	5.3	0.7	56.5	8.6
	女性	635	24.7	18.4	15.3	11.3	8.2	7.6	3.6	1.1	51.0	8.7
年齢別	20歳代以下	51	23.5	13.7	15.7	5.9	3.9	9.8	11.8	-	60.8	3.9
	30歳代	84	10.7	13.1	8.3	3.6	2.4	11.9	1.2	-	65.5	3.6
	40歳代	138	18.1	15.9	11.6	7.2	5.8	11.6	3.6	0.7	58.0	7.2
	50歳代	174	26.4	21.3	16.7	16.7	8.0	8.0	4.6	1.1	48.3	6.9
	60歳代	239	27.6	20.9	15.9	13.4	11.7	3.8	5.4	0.8	49.4	8.8
	70歳代	205	29.3	16.1	16.6	8.3	11.2	2.4	2.0	1.0	51.2	10.7
	80歳以上	47	23.4	4.3	12.8	10.6	8.5	2.1	4.3	4.3	42.6	25.5
被害経験の有無別	被害経験あり	209	20.1	18.7	15.3	13.4	9.6	8.6	3.3	2.4	48.3	10.0
	被害経験なし	725	25.7	16.7	13.9	9.4	7.9	5.7	4.3	0.6	54.3	8.3
地域別	奈良市	195	21.5	19.0	15.4	7.7	6.7	5.1	3.1	0.5	54.9	9.2
	中央子ども家庭相談センター管轄地域	297	17.2	16.2	14.5	9.1	8.1	6.1	3.4	2.0	55.6	9.1
	高田子ども家庭相談センター管轄地域	340	32.1	16.8	13.2	12.6	10.3	5.6	4.4	0.3	50.3	7.4

※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

単位：%

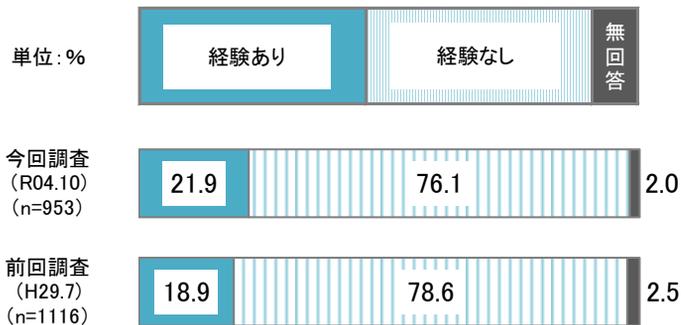
※1: 前回は「女性に対する暴力防止フォーラム」

2. 配偶者等からの暴力について 【被害経験について】

問10. あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手などから問7のA～Oのような行為を受けた経験がありますか。(SA)

**DVを受けた「経験あり」は21.9%である。「経験あり」は男性と比べて女性の方が高い。
収入がない層は「経験あり」の比率が高い。**

- 配偶者や交際相手などからの暴力を受けた「経験あり」は21.9%、「経験なし」は76.1%である。
- 前回調査と比べると「経験あり」は3.0ポイント上昇している。
- 性別で見ると、女性は「経験あり」の比率が男性と比べて高い。
- 年収別で見ると、「経験あり」が最も高いのは収入なし層（35.4%）である。



		サンプル数	経験あり	経験なし	無回答
全 体		953	21.9	76.1	2.0
性別	男性	301	13.6	84.1	2.3
	女性	635	25.7	72.8	1.6
年齢別	20歳代以下	51	21.6	78.4	-
	30歳代	84	31.0	69.0	-
	40歳代	138	22.5	76.8	0.7
	50歳代	174	25.9	71.3	2.9
	60歳代	239	18.4	79.9	1.7
	70歳代	205	17.6	79.5	2.9
	80歳以上	47	21.3	76.6	2.1
年収別	収入なし	79	35.4	63.3	1.3
	100万円未満	228	22.8	74.6	2.6
	100～200万円未満	189	23.3	75.1	1.6
	200～400万円未満	241	14.1	84.6	1.2
	400～600万円未満	108	18.5	78.7	2.8
	600万円以上	66	24.2	74.2	1.5
地域別	奈良市	195	19.0	79.0	2.1
	中央こども家庭相談センター管轄地域	297	23.6	74.4	2.0
	高田こども家庭相談センター管轄地域	340	18.2	80.6	1.2

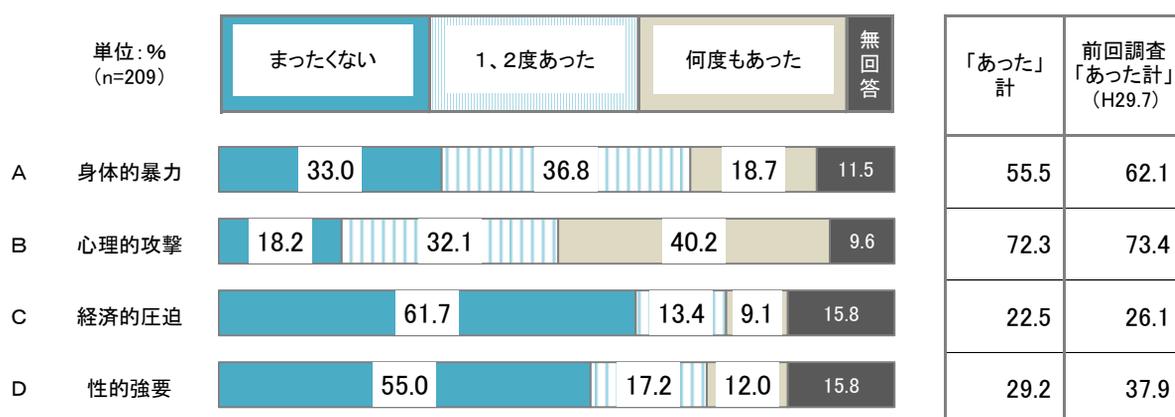
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

問11. 相手から、どのような行為を受けた経験がありますか。(SA)【問10で「1. 経験あり」と回答した方】

被害経験が最も高いのは「心理的攻撃」で72.3%。いずれの行為も前回調査時から低下している。「身体的暴力」、「性的強要」、「経済的圧迫」は女性における被害経験が高い。

- 暴力の内容別に被害経験をみると、経験が「あった計」は「心理的攻撃」が72.3%で最も高く、「身体的暴力」(55.5%)、「性的強要」(29.2%)、「経済的圧迫」(22.5%)と続いている。
- 前回調査と比べるといずれの内容も「あった計」の比率は低下している。
- 性別でみると、「心理的攻撃」以外は女性の方が「あった計」の比率が高い。特に「経済的圧迫」、「性的強要」に関しては男女の差が著しい。
- 年齢別でみると、40歳代から70歳代の間で、「身体的暴力」は年齢が高くなるほど「あった計」が高くなる傾向が見られる。



※表内は「あった計」スコア

	全体	性別		年代別						地域別			
		男性	女性	20歳代以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	奈良市	中央-近畿圏地域相談セ	高田-近畿圏地域相談セ
(n)	(209)	(41)	(163)	(11)	(26)	(31)	(45)	(44)	(36)	(10)	(37)	(70)	(62)
身体的暴力	55.5	39.0	59.5	45.5	42.3	48.4	53.3	59.1	69.4	60.0	51.3	45.8	64.5
心理的攻撃	72.3	75.6	72.4	72.8	92.3	87.1	75.6	65.9	58.3	50.0	81.1	78.5	61.3
経済的圧迫	22.5	7.3	26.4	9.1	23.1	25.8	22.2	22.7	27.8	10.0	35.1	21.4	12.9
性的強要	29.2	7.3	34.9	27.3	11.5	32.3	35.6	31.8	33.3	20.0	29.7	34.3	24.2

※ ■ は全体より10ポイント以上、 ■ は全体より5ポイント以上高い

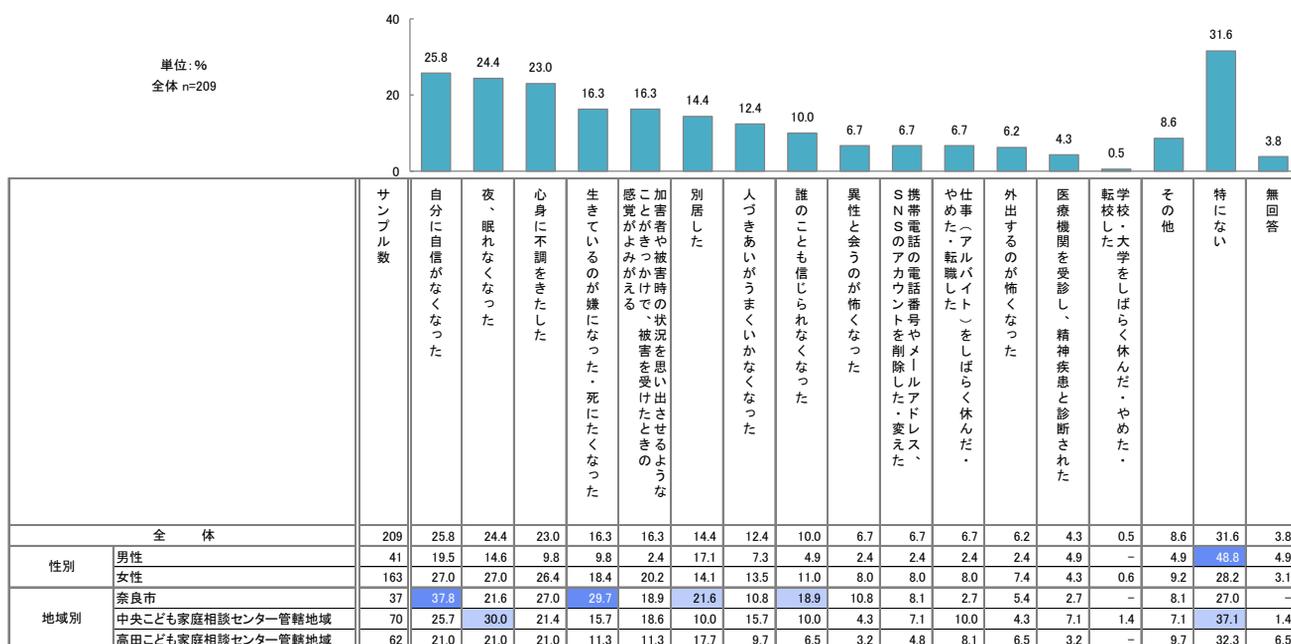
単位: %

問12. あなたはこれまでに、相手から受けた問7または問11の行為によって、生活が変わりましたか。(MA)【問10で「1. 経験あり」と回答した方】

DVによる生活の影響は「自分に自信がなくなった」(25.8%)、「夜、眠れなくなった」(24.4%)、「心身に不調をきたした」(23.0%)が上位である。

性別でみると、男性の約半数は生活の変化は「特にない」としている一方で、女性の約7割は、DVによって生活が変わったとしている。

- DVによる生活への影響は「特にない」(31.6%)を除くと、「自分に自信がなくなった」(25.8%)、「夜、眠れなくなった」(24.4%)、「心身に不調をきたした」(23.0%)が上位である。
- 性別でみると、男性に比べて女性は「特にない」の比率が低く、特に「加害者や被害時の状況を思い出させるようなことがきっかけで、被害を受けたときの感覚がよみがえる」、「心身に不調をきたした」、「夜、眠れなくなった」などは男性より女性の比率が高くなっている。



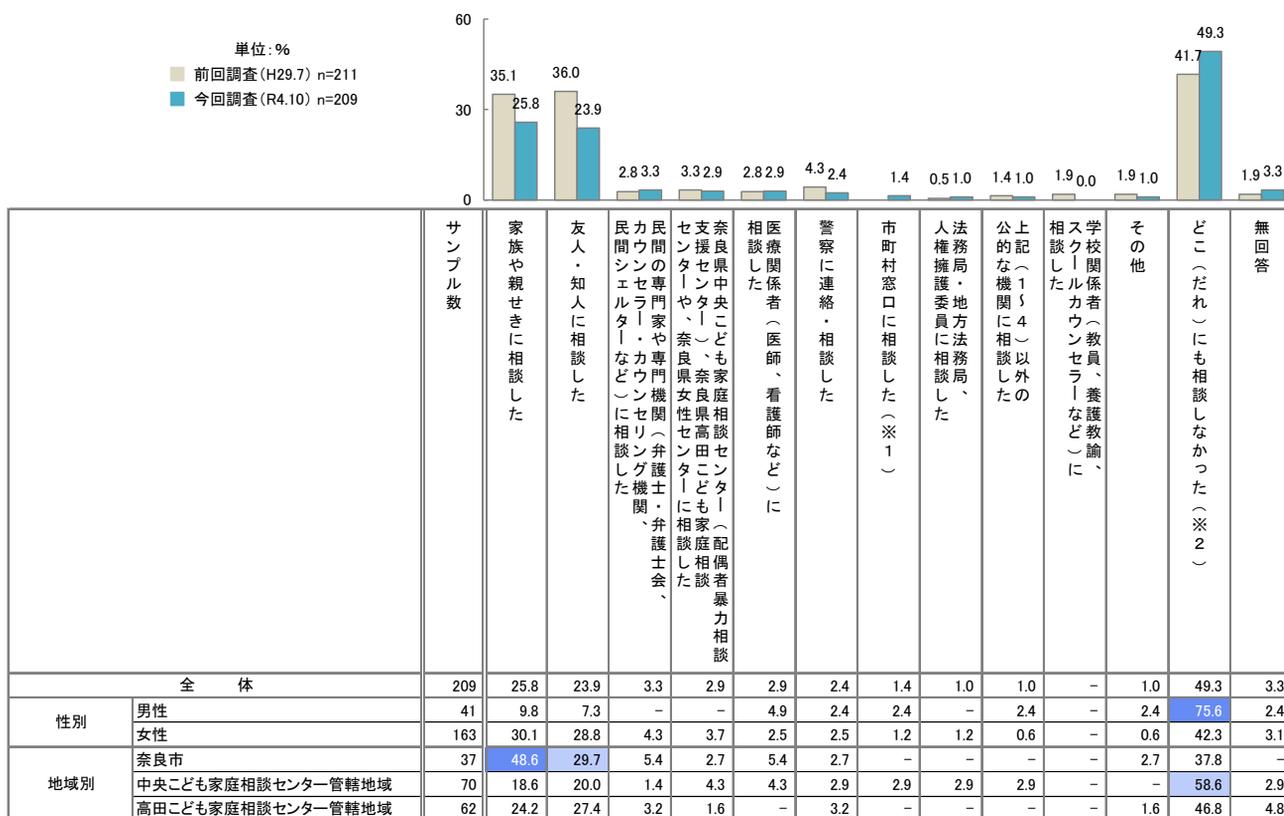
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い 単位: %

問13. あなたはこれまでに、問11のA～Dのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(MA)【問10で「1. 経験あり」と回答した方】

DVについての相談先は「家族や親せきに相談した」(25.8%)、「友人・知人に相談した」(23.9%)が上位だが、約半数が「どこ(だれ)にも相談しなかった」としており、専門機関や公的サービスの利用もほとんど見られない。

前回調査と比べると、「家族や親せき」「友人・知人」への相談経験も低下している。

- DVについての相談は「どこ(だれ)にも相談しなかった」(49.3%)が約半数を占めており、最も高くなっている。相談先では「家族や親せきに相談した」(25.8%)、「友人・知人に相談した」(23.9%)が上位でその他の相談先はいずれも5%未満とわずかである。
- 前回調査と比べると「家族や親せきに相談した」、「友人・知人に相談した」どちらも10ポイント前後低下しており、「どこ(だれ)にも相談しなかった」は7.6ポイント上昇している。
- 性別で見ると、男性は「どこ(だれ)にも相談しなかった」が75.6%と女性と比べて高い。

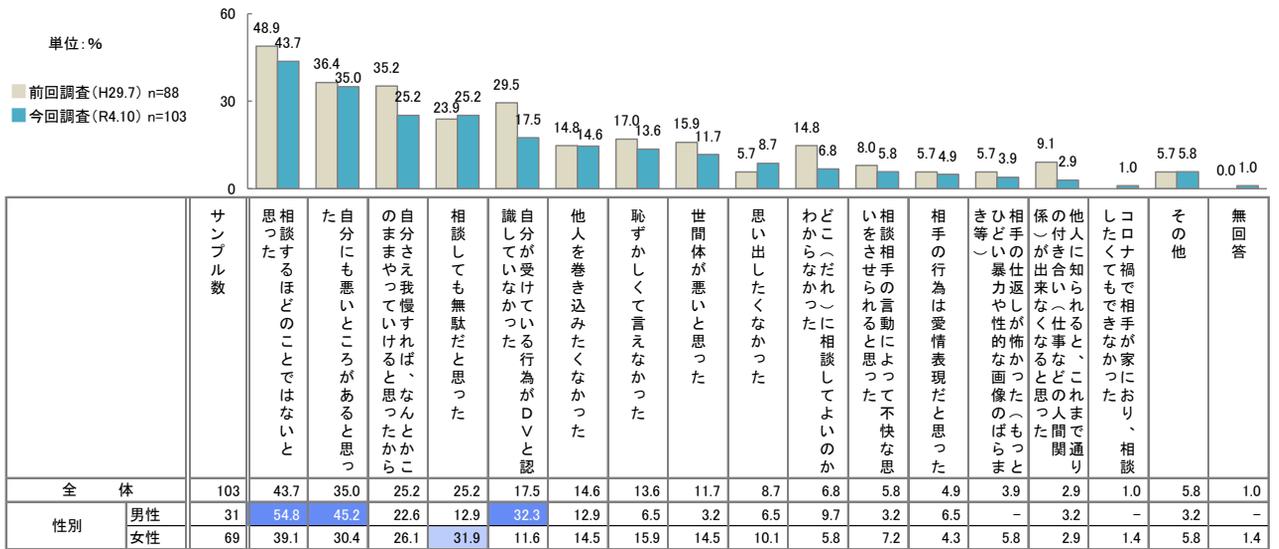


※1: 前は該当する選択肢なし
 ※2: 前は「どこにも相談しなかった」

問14. どこ(だれ)にも相談しなかったのはなぜですか。(MA)【問13で「12. どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した方】

相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思った」(43.7%)、「自分にも悪いところがあると思った」(35.0%)、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(25.2%)が上位である。

- 相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思った」(43.7%)が最も高く、「自分にも悪いところがあると思った」(35.0%)、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(25.2%)が続いている。
- 前回調査と比べると、「自分が受けている行為がDVと認識していなかった」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が10ポイント以上低下している。

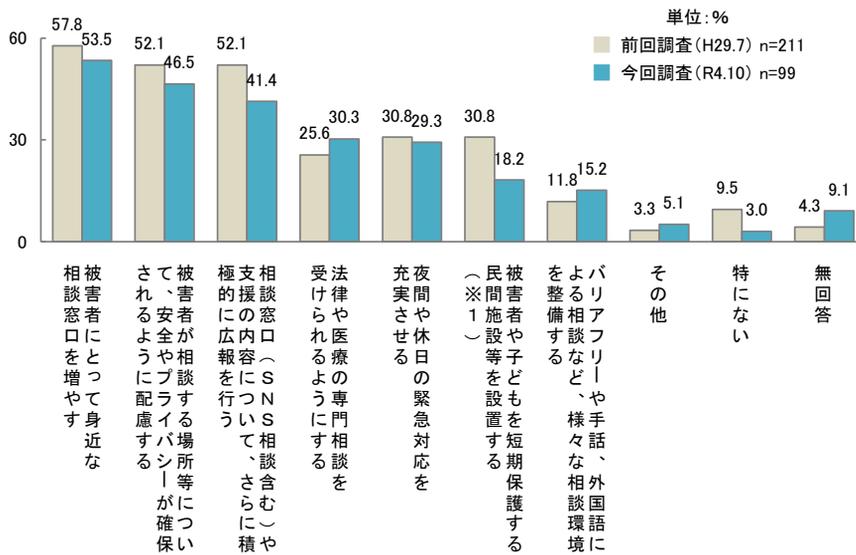


※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位: %

問15. 行政機関の相談窓口について、相談をしやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(MA)【問13で「1」～「11」のいずれかを回答した方】

相談をしやすくするために必要だと思うことの上位は、「被害者にとって身近な相談窓口を増やす」(53.5%)、「被害者が相談する場所等について、安全やプライバシーが確保されるように配慮する」(46.5%)、「相談窓口（SNS相談含む）や支援の内容について、さらに積極的に広報を行う」(41.4%)である。

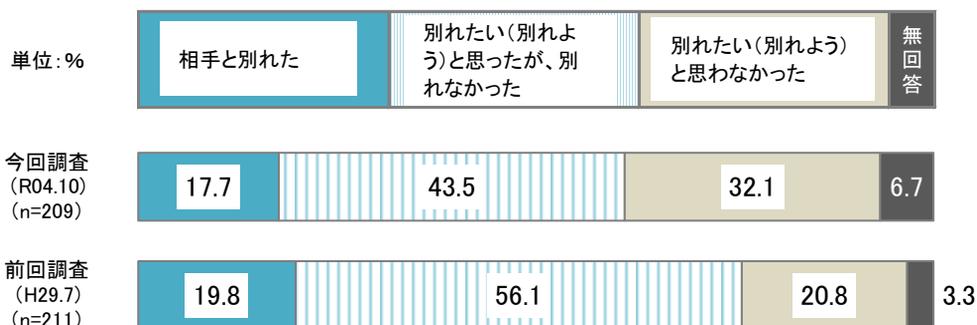


※1: 前回は「被害者や子どもを保護してくれる施設を増やす」

問16. あなたは、相手から、問11のA～Dのような行為を受けたとき、どうしましたか。(SA)【問10で「1. 経験あり」と回答した方】

DVを受けたときの行動は、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が43.5%で最も高く、「別れたい（別れよう）と思わなかった」（32.1%）が続いて、「相手と別れた」のは17.7%と2割に満たない。前回調査と比べるとDVを受けても「別れたいと思わない」が大きく上昇している。女性の半数以上が「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」としている。

- DVを受けたときの行動は「相手と別れた」が17.7%、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が43.5%、「別れたい（別れよう）と思わなかった」が32.1%である。
- 前回調査と比べると「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が12.6ポイント低下し、「別れたい（別れよう）と思わなかった」が11.3ポイント上昇している。
- 性別でみると、男性は「別れたい（別れよう）と思わなかった」が61.0%で最も高いのに対し、女性は「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が最も高い。



		サンプル数	相手と別れた	別れたい(別れよう)と思ったが、別れなかった	別れたい(別れよう)と思わなかった	無回答
全 体		209	17.7	43.5	32.1	6.7
性別	男性	41	12.2	14.6	61.0	12.2
	女性	163	19.6	51.5	24.5	4.3
地域別	奈良市	37	24.3	48.6	18.9	8.1
	中央子ども家庭相談センター管轄地域	70	14.3	47.1	34.3	4.3
	高田子ども家庭相談センター管轄地域	62	19.4	33.9	41.9	4.8

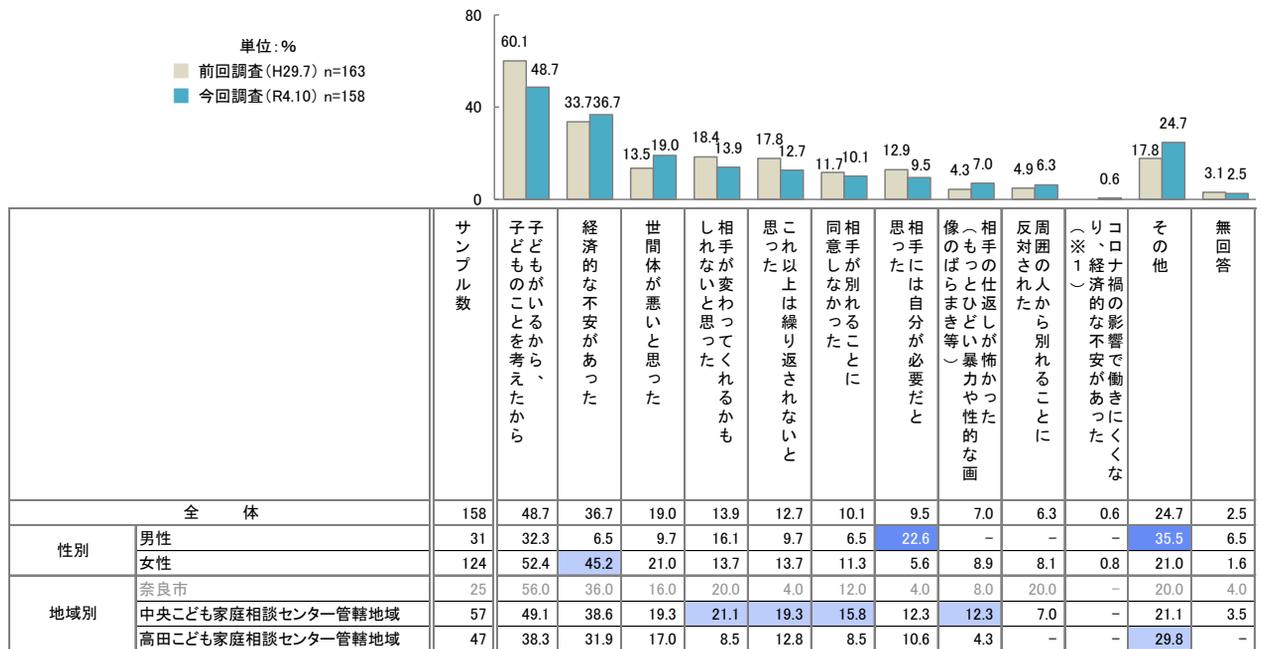
※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

単位：%

問17. あなたが、相手と別れなかった理由は何ですか。(MA)【問16で「2」「3」と回答した方】

**相手と別れなかった理由は、「子どもがいるから、子どものことを考えたから」(48.7%)、「経済的な不安があった」(36.7%)、「世間体が悪いと思った」(19.0%)が上位である。
男性は「相手には自分が必要だと思った」、女性は「経済的な不安があった」の比率がそれぞれ高い。**

- 相手と別れなかった理由は、「子どもがいるから、子どものことを考えたから」が48.7%で最も高く、「経済的な不安があった」(36.7%)、「世間体が悪いと思った」(19.0%)が続いている。
- 前回調査と比べると「子どもがいるから、子どものことを考えたから」は11.4ポイント、「これ以上は繰り返されないと」は5.1ポイント低下している一方、「世間体が悪いと思った」は5.5ポイント上昇している。
- 性別で見ると男性は「相手には自分が必要だと思った」、女性は「経済的な不安があった」が「子どもがいるから、子どものことを考えたから」に次いで比率が高い。(「その他」は除く)



※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

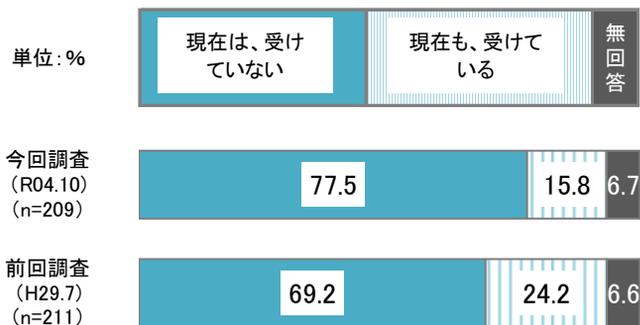
単位: %

※1: 前回はなし

問18. あなたは、相手から、現在も、問11のA～Dのような行為を受けていますか。(SA)【問10で「1. 経験あり」と回答した方

D Vを「現在は受けてない」が77.5%を占めており、前回調査時から8.3ポイント上昇している。

- D Vについて「現在は、受けてない」が77.5%、「現在も受けている」が15.8%である。
- 前回調査と比べて現在は、受けてない」8.3ポイント上昇している。
- 地域別で見ると、奈良市は「現在も受けている」が24.3%と他のエリアと比べて高い。



		サンプル数	現在は、受けてない	現在も、受けている	無回答
全 体		209	77.5	15.8	6.7
性別	男性	41	73.2	17.1	9.8
	女性	163	78.5	16.0	5.5
地域別	奈良市	37	73.0	24.3	2.7
	中央子ども家庭相談センター管轄地域	70	78.6	14.3	7.1
	高田子ども家庭相談センター管轄地域	62	80.6	12.9	6.5

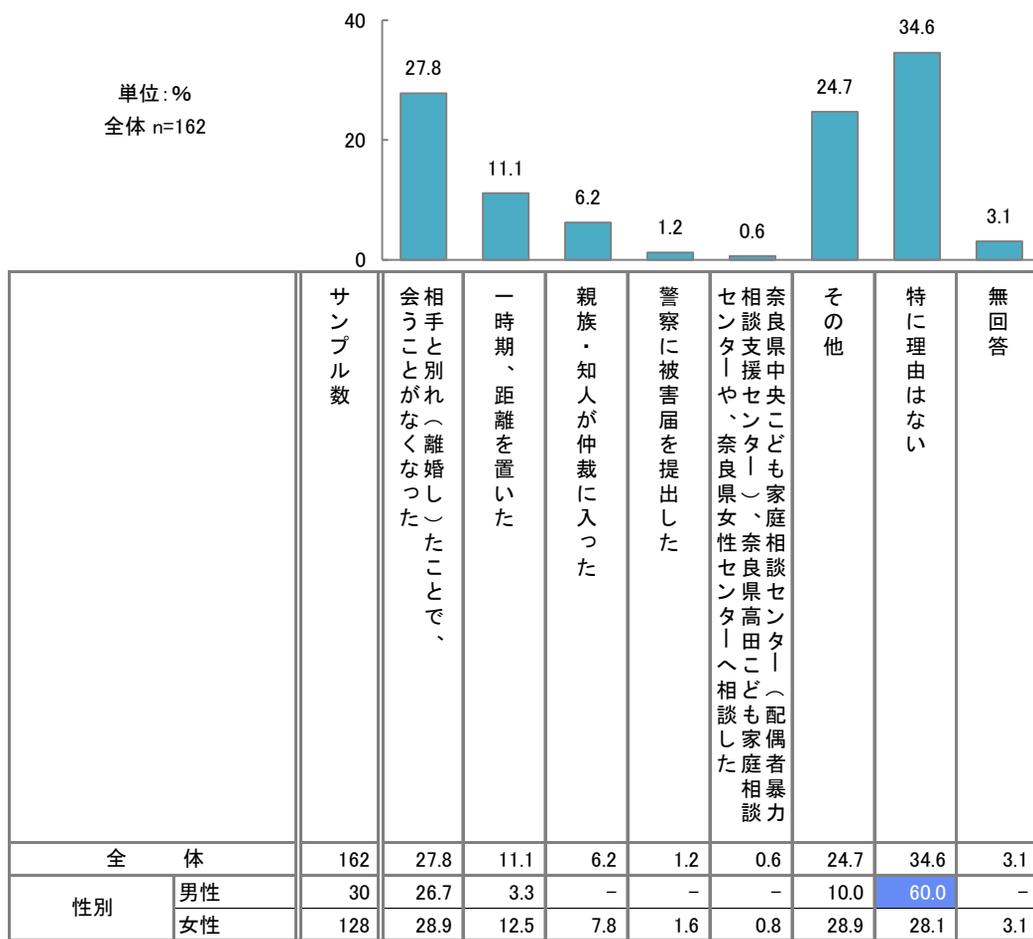
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

問19. 問11のA～Dのような行為を受けなくなった理由は何だと思いますか。(MA)【問18で「1. 現在は受けていない」と回答した方】

DVを受けなくなった理由は「相手と別れ（離婚し）たことで、会うことがなくなった」が27.8%が高いが、「特に理由はない」が34.6%で最も高い。

- DVを受けなくなった理由は「特に理由はない」が34.6%見られるが、それを除くと「相手と別れ（離婚し）たことで、会うことがなくなった」が27.8%で最も高く、「一時期、距離を置いた」（11.1%）、「親族・知人が仲裁に入った」（6.2%）が続いている。
- 性別でみると、男性は「特に理由はない」が高く、女性は「一時期、距離を置いた」の比率が高い。



※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

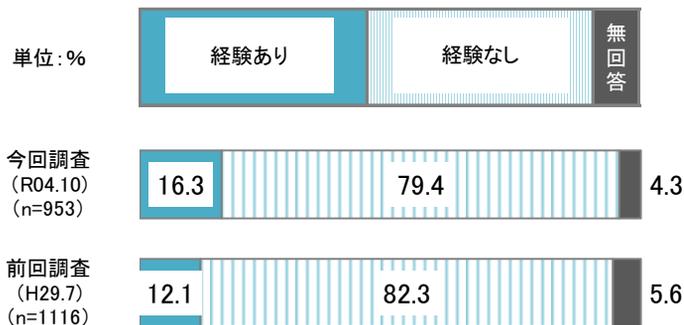
単位：%

2. 配偶者等からの暴力について 【加害経験について】

問20. あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手に対して、問7のA～Oのような行為を行った経験がありますか。(SA)

DVの加害「経験あり」は16.3%である。男性の加害経験あり率は24.6%で女性の2倍。また、自身がDV被害経験がある層の加害経験は39.7%と非常に高い。

- DVの加害「経験あり」は16.3%、「経験なし」は79.4%である。
- 前回調査と比べると、「経験あり」が4.2ポイント上昇している。
- 性別でみると、男性は「経験あり」が24.6%と女性と比べて非常に高い。
- 被害経験別でみると、被害経験がある層は加害「経験あり」が39.7%と被害経験なし層と比べて30ポイント近く高くなっている。
- 年収別でみると、収入なしを除くと年収が高くなるほど「経験あり」の比率が高くなる傾向が見られる。



		サンプル数	経験あり	経験なし	無回答
全 体		953	16.3	79.4	4.3
性別	男性	301	24.6	70.1	5.3
	女性	635	12.3	84.3	3.5
年齢別	20歳代以下	51	11.8	86.3	2.0
	30歳代	84	15.5	83.3	1.2
	40歳代	138	17.4	82.6	-
	50歳代	174	16.1	79.3	4.6
	60歳代	239	17.2	80.3	2.5
	70歳代	205	16.6	76.1	7.3
	80歳以上	47	14.9	70.2	14.9
被害経験の有無別	被害経験あり	209	39.7	54.1	6.2
	被害経験なし	725	9.9	88.4	1.7
年収別	収入なし	79	15.2	79.7	5.1
	100万円未満	228	12.7	82.9	4.4
	100～200万円未満	189	13.8	82.0	4.2
	200～400万円未満	241	17.8	78.4	3.7
	400～600万円未満	108	19.4	77.8	2.8
	600万円以上	66	25.8	72.7	1.5
地域別	奈良市	195	15.4	82.1	2.6
	中央子ども家庭相談センター管轄地域	297	17.2	77.8	5.1
	高田子ども家庭相談センター管轄地域	340	14.4	82.1	3.5

※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

単位：%

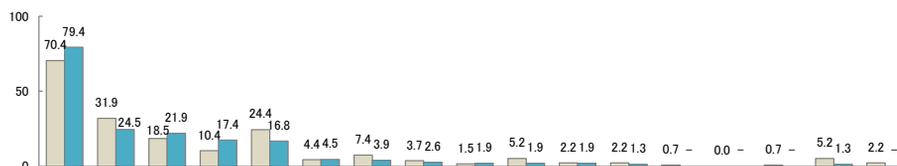
問21. 相手に対して、具体的にどのような行為を行いましたか。(MA)【問20で「1. 経験あり」と回答した方】

行ったDV行為は「大声でどなる」が79.4%と突出しており、「平手で打つ」(24.5%)、「何を言っても長期間無視し続ける」(21.9%)が続いている。

男性は「大声でどなる」、「なぐるふりをして、おどす」が女性と比べて高く、女性は「何を言っても長期間無視し続ける」、「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」が男性よりも高い。

- 行ったDV行為は、「大声でどなる」が79.4%で突出して高く、「平手で打つ」(24.5%)、「何を言っても長期間無視し続ける」(21.9%)が続いている。
- 前回調査と比べると、「大声でどなる」が9.0ポイント、「なぐるふりをして、おどす」が7.0ポイント上昇しており、一方で「足でける」は7.6ポイント、「平手で打つ」は7.4ポイント低下している。
- 性別で見ると、男性は女性と比べて、「大声でどなる」、「なぐるふりをして、おどす」の比率が高く、女性は「何を言っても長期間無視し続ける」、「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」の比率が男性と比べて高い。

単位：%
 ■ 前回調査(H29.7) n=135
 ■ 今回調査(R4.10) n=155



サンプル数	大声でどなる	平手で打つ	何を言っても長期間無視し続ける	なぐるふりをして、おどす	足でける	メール関係や行き先、電話・しんたとか、「かいいしような」と言う	運のおかけで生活できている物でなぐる	身体を傷つける可能性のある物でなぐる	刃物などを突きつけておどす	他の異性との会話やメールを許さない	嫌がっているのに性的な行為を強要する	家計に必要な生活費を渡さない	外出先を制限する	職場に行くことを妨害したり、持たせない	家族や友人との関わりを避妊に協力しない	その他	無回答		
全体	155	79.4	24.5	21.9	17.4	16.8	4.5	3.9	2.6	1.9	1.9	1.3	-	-	-	1.3	-		
性別																			
男性	74	90.5	24.3	12.2	23.0	13.5	4.1	4.1	-	1.4	1.4	1.4	1.4	-	-	-	1.4	-	
女性	78	70.5	23.1	30.8	10.3	16.7	3.8	3.8	5.1	2.6	1.3	1.3	-	-	-	-	1.3	-	
被害経験の有無別																			
被害経験あり	83	79.5	25.3	28.9	18.1	19.3	3.6	6.0	4.8	2.4	2.4	2.4	1.2	-	-	-	2.4	-	
被害経験なし	72	79.2	23.6	13.9	16.7	13.9	5.6	1.4	-	1.4	1.4	1.4	1.4	-	-	-	-	-	
地域別																			
奈良市	30	73.3	23.3	20.0	10.0	16.7	6.7	6.7	3.3	3.3	6.7	3.3	3.3	-	-	-	3.3	-	
中央こども家庭相談センター管轄地域	51	82.4	27.5	27.5	15.7	15.7	3.9	3.9	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	-	-	-	-	-	
高田こども家庭相談センター管轄地域	49	79.6	22.4	16.3	22.4	18.4	4.1	4.1	2.0	2.0	2.0	-	-	-	-	-	2.0	-	

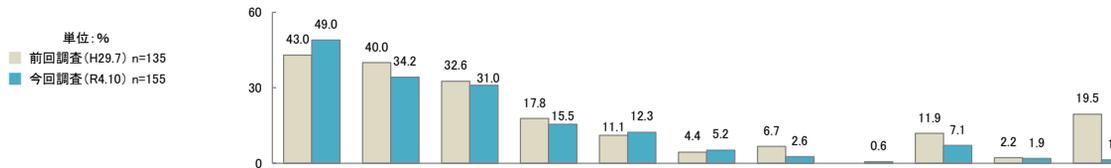
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い

単位：%

問22. あなたが、問21で選択したような行為を行った理由またはきっかけは何ですか。(MA)[問20で「1. 経験あり」と回答した方]

DV行為を行った理由は「ついカッとなってやってしまった」(49.0%)、「相手の間違いを正そうとした」(34.2%)、「相手がそうされても仕方がないことをした」(31.0%)が上位である。男性は「ついカッとなってやってしまった」が最も高いが、女性は「相手がそうされても仕方がないことをした」が最も高い。DV被害経験がある層は無い層に比べて「相手が自分に対して危害を加えてきたので身を守ろうとした」の比率が高い。

- DV行為を行った理由、きっかけは「ついカッとなってやってしまった」が49.0%で最も高く、「相手の間違いを正そうとした」(34.2%)、「相手がそうされても仕方がないことをした」(31.0%)が続いている。
- 前回調査と比べると、「ついカッとなってやってしまった」が6.0ポイント上昇しており、一方で、「相手の間違いを正そうとした」は5.8ポイント低下している。
- 性別でみると、男性は「ついカッとなってやってしまった」が62.2%で最も高いが、女性は「相手がそうされても仕方がないことをした」が最も高くなっている。また女性は男性より「相手がそうされても仕方がないことをした」、「相手が自分に対して危害を加えてきたので身を守ろうとした」の比率が5ポイント以上高い。
- 被害経験の有無別でみると、「相手が自分に対して危害を加えてきたので身を守ろうとした」が被害経験なし層が1.4%とわずかであるのに対し、あり層では21.7%と大きな差が見られる。



	サンプル数	ついカッとなってしまった	相手の間違いを正そうとした	相手がそうされても仕方がないことをした	溜まっていた	仕事や日常生活のストレス	相手が自分を守ろうとしたので	酒を飲んでいて	親しい関係のため	たまたま(※1)	その他	特に理由はない	無回答
全体	155	49.0	34.2	31.0	15.5	12.3	5.2	2.6	0.6	7.1	1.9	1.3	
性別													
男性	74	62.2	35.1	21.6	12.2	8.1	5.4	2.7	-	6.8	1.4	1.4	
女性	78	37.2	34.6	39.7	16.7	15.4	5.1	2.6	1.3	7.7	2.6	1.3	
被害経験の有無別													
被害経験あり	83	45.8	37.3	38.6	19.3	21.7	7.2	2.4	1.2	7.2	2.4	2.4	
被害経験なし	72	52.8	30.6	22.2	11.1	1.4	2.8	2.8	-	6.9	1.4	-	
地域別													
奈良市	30	30.0	40.0	30.0	16.7	10.0	6.7	3.3	-	16.7	-	3.3	
中央子ども家庭相談センター管轄地域	51	52.9	43.1	43.1	13.7	9.8	3.9	2.0	2.0	3.9	3.9	2.0	
高田子ども家庭相談センター管轄地域	49	57.1	30.6	24.5	16.3	18.4	4.1	2.0	-	4.1	-	-	

※ 濃い青は全体より10ポイント以上、薄い青は全体より5ポイント以上高い

単位: %
※1: 前回はなし

問23. あなたは、現在も、問21で選択したような行為を行っていますか。(SA)【問20で「1. 経験あり」と回答した方】

DVを「現在は、行っていない」は78.1%、「現在も、行うことがある」が18.7%で、前回調査と比べると現在は、行っていない」は5.5ポイント上昇している。

被害経験がある層はない層と比べて「現在も、行うことがある」比率が高い。

- DVを「現在は、行っていない」は78.1%、「現在も、行うことがある」が18.7%である。
- 前回調査と比べると、「現在は、行っていない」は5.5ポイント上昇している。
- 被害経験の有無別で見ると、被害経験あり層は、「現在も、行うことがある」が22.9%となし層と比べて高い。



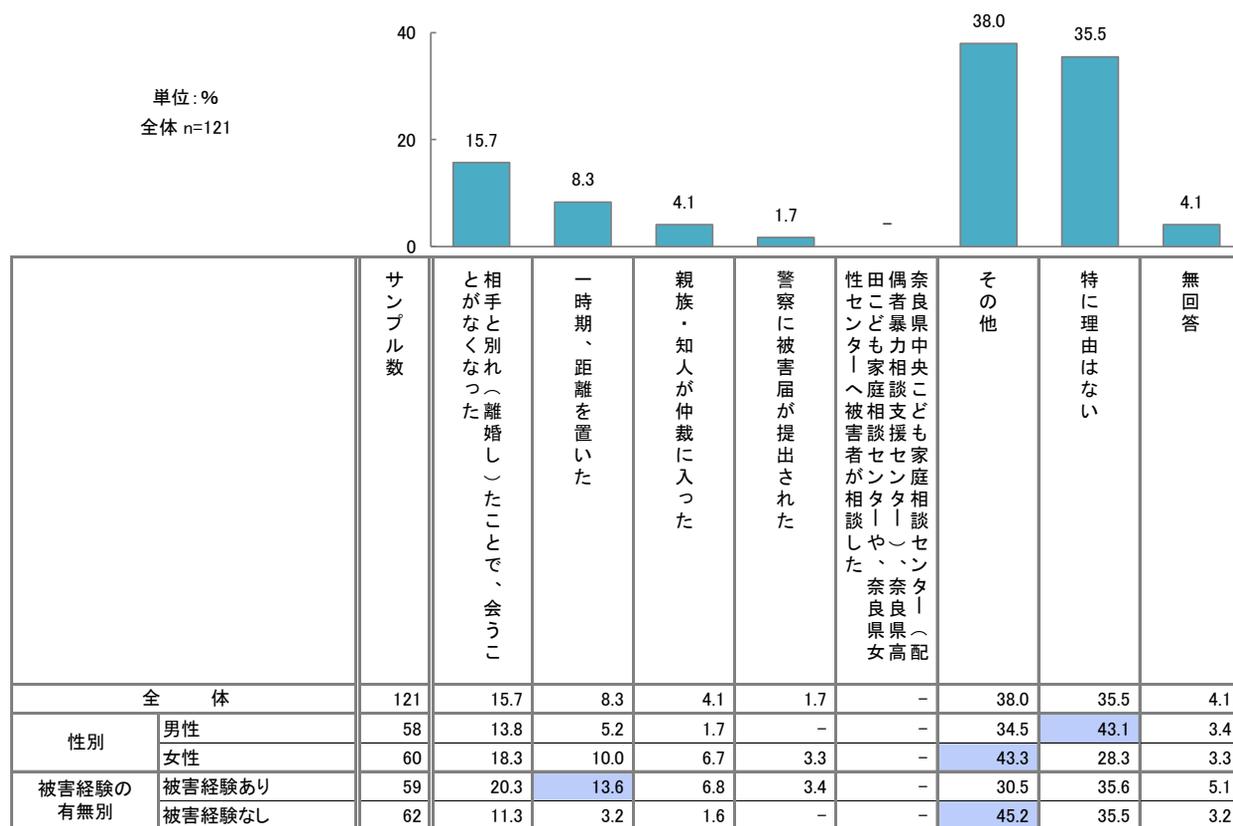
		サンプル数	現在は、行っていない	現在も、行うことがある	無回答
全 体		155	78.1	18.7	3.2
性別	男性	74	78.4	18.9	2.7
	女性	78	76.9	19.2	3.8
被害経験の有無別	被害経験あり	83	71.1	22.9	6.0
	被害経験なし	72	86.1	13.9	-
地域別	奈良市	30	76.7	20.0	3.3
	中央子ども家庭相談センター管轄地域	51	74.5	21.6	3.9
	高田子ども家庭相談センター管轄地域	49	77.6	20.4	2.0

※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い 単位：%

問24. 問21で選択したような行為を行わなくなった理由は何だと思えますか。(MA)【問23で「1. 現在は、行っていない」と回答した方】

DV行為を行わなくなった理由は、「特に理由はない」が35.5%、「相手と別れ（離婚し）たことで、会うことがなくなった」が15.7%見られた。最も比率が高い「その他」の内容をみると、「反省したから」、「年齢とともに落ち着いたから」が上位である。

- DV行為を行わなくなった理由は「その他」（38.0%）、「特に理由はない」（35.5%）を除くと、「相手と別れ（離婚し）たことで、会うことがなくなった」が15.7%で最も高く、「一時期、距離を置いた」（8.3%）、「親族・知人が仲裁に入った」（4.1%）が続いている。
- 「その他」が38.0%と最も高く、その回答を内容別に分類したところ、「反省したから」（9件）が最も多く、「年齢とともに落ち着いたから」（8件）、「ケンカをしなくなったから」、「相手の悪いところが改善されたから」（4件）が続いている。



※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

単位：%

【「その他」回答内容（内容別に分類、上位抜粋）】

「反省したから」（9件）

「年齢とともに落ち着いたから」（8件）

「ケンカをしなくなったから」（4件）

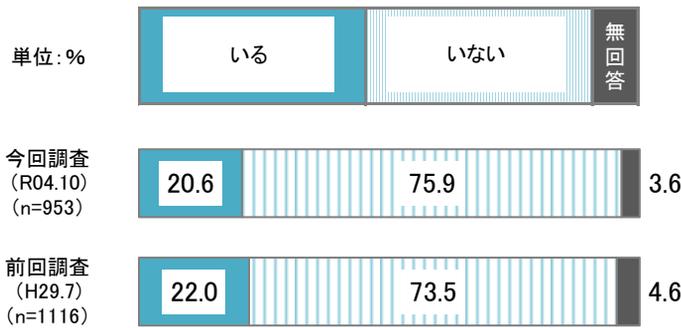
「相手の悪いところが改善されたから」（4件）

3. 友人や家族などからのDVに関する相談について

問25. あなたの家族、親戚、友人、知人など身近な人の中で配偶者や交際相手から問7のA～Oのような行為を受けている人、もしくは過去に受けた人はいますか。(SA)

**DVを受けている人が身近に「いる」のは20.6%、「いない」は75.9%である。
女性、30～50歳代、被害経験あり層、奈良市居住者で「いる」比率が他層と比べて高い。**

- 身近な人でDV行為を受けている、過去に受けていた人は、「いる」が20.6%、「いない」が75.9%である。
- 性別で見ると、男性と比べて女性は「いる」の比率が高い。
- 年齢別で見ると、30歳代～50歳代では「いる」比率が高めだが、60歳代以上から低下する傾向がみられる。
- 被害経験の有無別で見ると、被害経験があり層は、「いる」比率がなし層と比べて高い。
- 地域別で見ると、奈良市は他の地域と比べて「いる」比率が高い。



		サンプル数	いる	いない	無回答
全 体		953	20.6	75.9	3.6
性別	男性	301	14.6	80.7	4.7
	女性	635	23.5	74.2	2.4
年齢別	20歳代以下	51	21.6	74.5	3.9
	30歳代	84	29.8	69.0	1.2
	40歳代	138	26.1	73.2	0.7
	50歳代	174	28.7	69.5	1.7
	60歳代	239	16.3	80.3	3.3
	70歳代	205	14.1	81.5	4.4
	80歳以上	47	6.4	83.0	10.6
被害経験の有無別	被害経験あり	209	29.7	63.6	6.7
	被害経験なし	725	18.1	80.3	1.7
年収別	収入なし	79	19.0	77.2	3.8
	100万円未満	228	19.3	78.5	2.2
	100～200万円未満	189	21.2	76.7	2.1
	200～400万円未満	241	20.7	76.3	2.9
	400～600万円未満	108	26.9	69.4	3.7
	600万円以上	66	16.7	81.8	1.5
地域別	奈良市	195	25.1	71.8	3.1
	中央子ども家庭相談センター管轄地域	297	19.5	77.4	3.0
	高田子ども家庭相談センター管轄地域	340	18.5	79.1	2.4

※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

単位：%

問26. あなたは、問7のA～Oのような行為を受けている人から、相談を受けたことがありますか。(SA)
【問25で「1. いる」と回答した方】

**相談を受けた経験が「ある」のは42.9%、「ない」は57.1%である。
自身もDV被害経験がある層は相談を受けた経験が58.1%と高い。**

- DVを受けている人から相談を受けた経験が「ある」のは42.9%、「ない」が57.1%である。
- 性別で見ると、女性は男性より「ある」比率が高い。
- 被害経験の有無別で見ると、被害経験あり層は「ある」の比率がなし層と比べて高い。

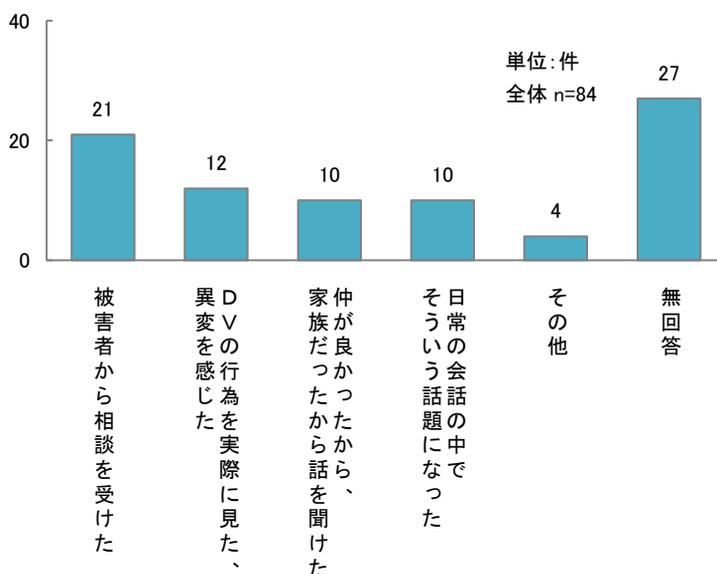


		サンプル数	ある	ない	無回答
全 体		196	42.9	57.1	-
性別	男性	44	20.5	79.5	-
	女性	149	48.3	51.7	-
被害経験の有無別	被害経験あり	62	58.1	41.9	-
	被害経験なし	131	34.4	65.6	-
地域別	奈良市	49	44.9	55.1	-
	中央子ども家庭相談センター管轄地域	58	46.6	53.4	-
	高田子ども家庭相談センター管轄地域	63	42.9	57.1	-

※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い 単位：%

問27. あなたが、相談を受けるに至った経緯についてご記入ください。(FA)
【問26で「1. ある」と回答した方】

相談を受けた経緯を自由記述形式で回答してもらい、内容別に分類したところ、最も多かったのは「被害者から相談を受けた」(21件)で、「DVの行為を実際に見た、異変を感じた」(12件)、「仲が良かったから、家族だったから話を聞いた」、「日常の会話の中でそういう話題になった」(いずれも10件)が続いている。



【具体的な回答内容 (代表的なご意見を抜粋)】

「被害者から相談を受けた」(21件)

- ・その人の父が酒飲みで暴れたということで相談してきた
- ・娘婿が怒鳴ると相談あり

「DVの行為を実際に見た、異変を感じた」(12件)

- ・その場に一緒にいた
- ・悩んでいるようだったので「どうしたの?」と聞いてみました

「仲が良かったから、家族だったから話を聞いた」(10件)

- ・仲が良いから
- ・身内だったから

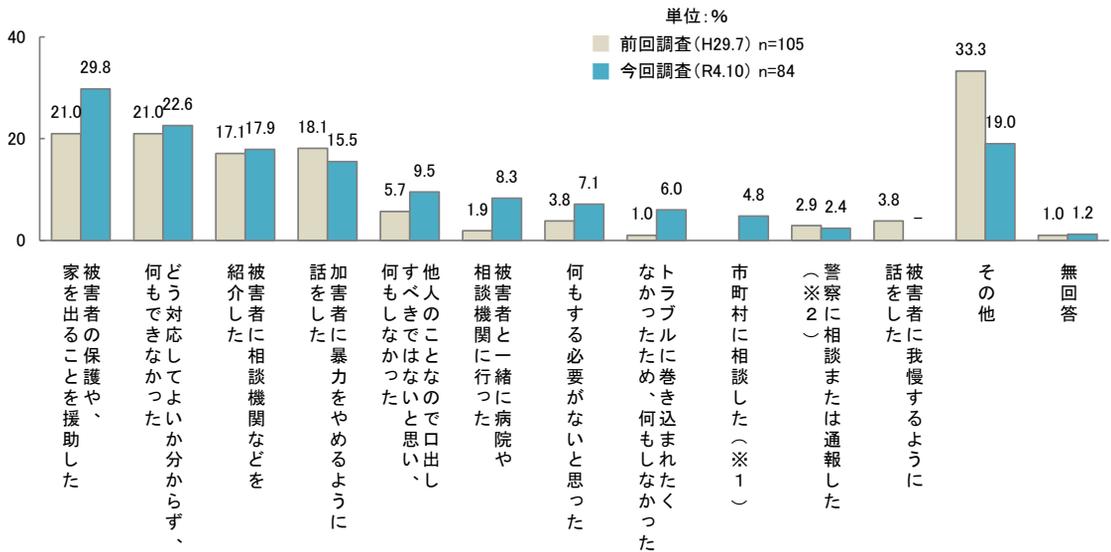
「日常の会話の中でそういう話題になった」(10件)

- ・雑談の中で
- ・相談と言うより、日常的な会話として内容を知った

問28. あなたが、相談を受けた後にとった行動についてお答えください。(MA)【問26で「1. ある」と回答した方】

相談を受けた後にとった行動は、「被害者の保護や、家を出ることを援助した」が29.8%で最も高く、「どう対応してよいか分からず、何もできなかった」(22.6%)、「被害者に相談機関などを紹介した」(17.9%)が続いている。

前回調査と比較すると、「被害者の保護や、家を出ることを援助した」が8.8ポイント上昇している。

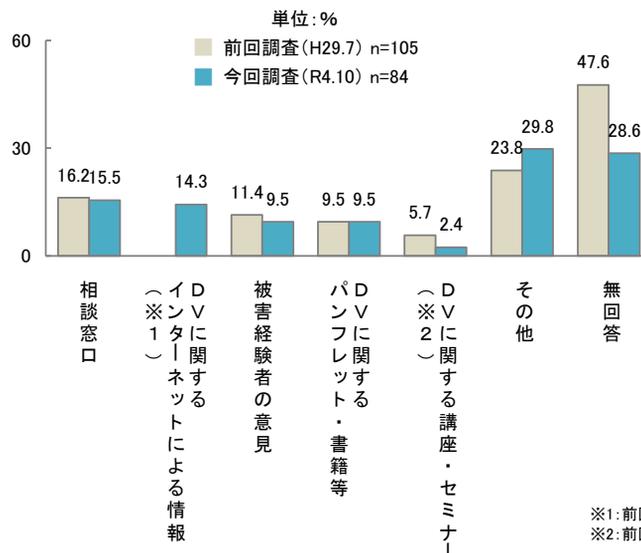


※1: 前回はなし

※2: 前回は「警察に相談した」と「警察に通報した」が別選肢としてあった(「警察に通報した」は0%であったため、「警察に相談した」の数値を掲載)

問29. あなたは、相談を受けて、アドバイスや対応などをするために参考としたものはありますか。(MA)【問26で「1. ある」と回答した方】

アドバイスや対応をするために参考にしたものは、「その他」を除いて「相談窓口」が15.5%で最も高く、「DVに関するインターネットによる情報」(14.3%)、「被害経験者の意見」(9.5%)が上位である。



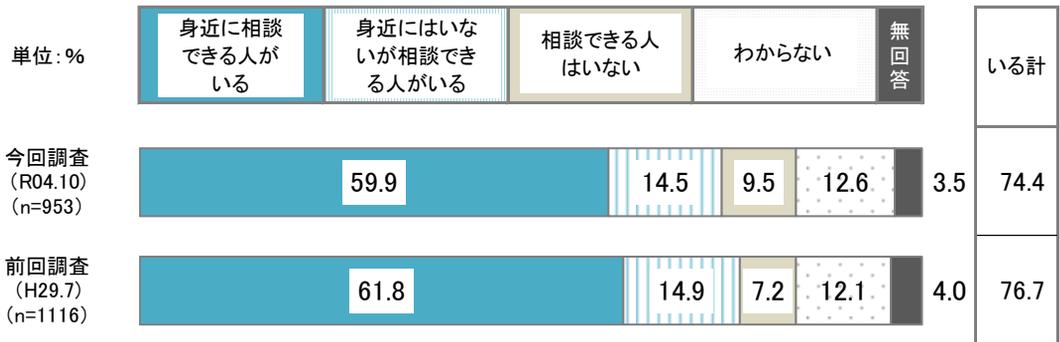
※1: 前回はなし

※2: 前回は「DVに関する講座・フォーラム」

問31. あなたは、悩みや心配事(DVIにかかわらず)があるとき、身近に相談ができる人がいますか。(SA)

悩みや心配事を「相談できる人がいる」人は74.4%で、「相談できる人はいない」人は9.5%見られる。男性や被害経験がある層は「相談できる人はいない」の比率が高い。

- 悩みや心配事を「身近に相談できる人がいる」のは59.9%、「身近にはいないが相談できる人がいる」(14.5%)も含めると、74.4%は「相談できる人がいる」としており、「相談できる人はいない」は9.5%、「わからない」は12.6%である。
- 性別でみると、男性は「相談できる人はいない」が20.6%と高い。
- 年齢別でみると、50歳代から年齢が高くなるにつれて、「いる計」が低下する傾向が見られる。
- 被害経験の有無別でみると、被害経験あり層は「相談できる人はいない」の比率が18.2%と高い。



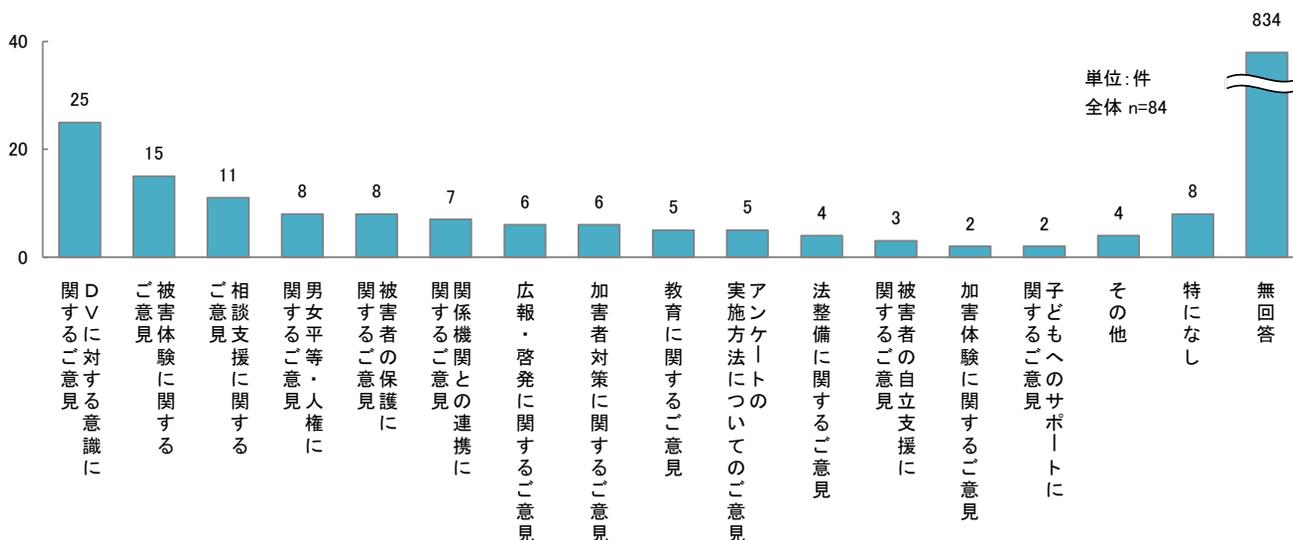
		サンプル数	身近に相談できる人がいる	身近にはいないが相談できる人がいる	相談できる人はいない	わからない	無回答	いる計
全 体		953	59.9	14.5	9.5	12.6	3.5	74.4
性別	男性	301	44.2	17.9	15.0	20.6	2.3	62.1
	女性	635	68.5	13.1	6.9	8.8	2.7	81.6
年齢別	20歳代以下	51	72.5	9.8	5.9	11.8	-	82.3
	30歳代	84	67.9	11.9	7.1	10.7	2.4	79.8
	40歳代	138	69.6	13.0	3.6	13.8	-	82.6
	50歳代	174	62.1	14.4	7.5	13.8	2.3	76.5
	60歳代	239	56.9	15.5	13.4	10.9	3.3	72.4
	70歳代	205	52.2	18.0	10.7	14.6	4.4	70.2
	80歳以上	47	59.6	10.6	17.0	8.5	4.3	70.2
被害経験の有無別	被害経験あり	209	50.7	12.9	18.2	13.9	4.3	63.6
	被害経験なし	725	62.9	14.9	7.0	12.4	2.8	77.8
年収別	収入なし	79	59.5	10.1	10.1	15.2	5.1	69.6
	100万円未満	228	64.5	17.5	7.9	7.0	3.1	82.0
	100～200万円未満	189	59.3	15.3	12.7	11.1	1.6	74.6
	200～400万円未満	241	57.7	14.5	8.3	17.8	1.7	72.2
	400～600万円未満	108	62.0	12.0	9.3	13.9	2.8	74.0
600万円以上	66	60.6	13.6	9.1	12.1	4.5	74.2	
地域別	奈良市	195	57.9	13.8	13.3	11.8	3.1	71.7
	中央子ども家庭相談センター管轄地域	297	60.3	15.2	9.8	12.5	2.4	75.5
	高田子ども家庭相談センター管轄地域	340	65.0	14.4	7.1	11.2	2.4	79.4

※ は全体より10ポイント以上、 は全体より5ポイント以上高い

単位:%

問32. 配偶者等からの暴力について、ご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。(FA)

DVに関する自由意見を内容別に分類したところ、「DVに対する意識に関するご意見」(25件)が最も多く、「被害体験に関するご意見」(15件)、「相談支援に関するご意見」(11件)が続いている。



【具体的な回答内容 (代表的な上位項目のご意見の一部を抜粋)】

「DVに対する意識に関するご意見」(25件)

- ・身体への暴力(体に傷をつける)は絶対あってはならないと思う。心、言葉の暴力については、自分自身が気付かず、相手に加害していることも考えられるため、十分に注意が必要であると思う
- ・昔は夫婦げんかで済まされた事案が、現在は問題として取り扱われる事が多くなった。これによって、救われる人が増えることは良い事だと思う

「被害体験に関するご意見」(15件)

- ・結婚する時に性格や人間性を見抜けなかったのが残念でした。酒を飲むと言葉の暴力や殴る、蹴る、物を投げる。とてもこわくて、骨折した事もあった
- ・殴られた事による身体の傷より、精神的な心の傷の方が大きいです。裏切り、何時間も怒鳴られ、私が悪いと家の恥だと何度も言われました

「相談支援に関するご意見」(11件)

- ・web上で、気軽に相談できるサイトがあれば、悩んでいる人も相談しやすいかもしれない
- ・気軽にカウンセリングしてくれる場があれば、病院に行く前のワンステップになると思う

「男女平等・人権に関するご意見」(8件)

- ・家庭第一に考えることを強要されること、滅私奉公が当然という考えもよくないと思う
 - ・男性から女性へのDVは話題になる事が多いが、逆の場合もあるであろうに、あまり報じられない気がする。
- 「女性＝弱者」とは必ずしも当てはまらないし、男性の方がより訴えにくい環境にないだろうか

「被害者の保護に関するご意見」(8件)

- ・一度、パートナーからの暴力から逃げてきた人に助けを求められたことがあります。(中略)ただの夫婦げんかじゃないの?という意見の人もいて実際に目の当たりにしたらどうすればいいのか、判断が難しかったです

IV. 調査票

配偶者等からの暴力に関する調査〔調査票〕

配偶者等※からの暴力に関する意識についてお伺いします。

※別居中の配偶者、事実婚、交際相手、同居していた元交際相手を含みます

問1 あなたは、「配偶者等からの暴力」（以下、「DV：ドメスティック・バイオレンス」）について、知っていますか。（あてはまるもの1つに○）

1. 言葉も、その内容も知っている
2. 言葉があることは知っているが、内容はよく知らない
3. 言葉があることを知らなかった（初めて聞いた言葉である）

問2 あなたは、「交際相手からの暴力」（以下、「デートDV」）について、知っていますか。（あてはまるもの1つに○）

1. 言葉も、その内容も知っている
2. 言葉があることは知っているが、内容はよく知らない
3. 言葉があることを知らなかった（初めて聞いた言葉である）

問3 あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（いわゆるDV防止法）」を知っていますか。（あてはまるもの1つに○）

※この法律は、配偶者等からの暴力（DV）に関する相談などの体制を整備することにより、配偶者等からの暴力を防止し、被害者の保護を図るものです。

1. 法律があることも、その内容も知っている
2. 法律があることは知っているが、内容はよく知らない
3. 法律があることを知らなかった

**問7 あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを「暴力」だと思えますか。
(A～Oそれぞれについて、あなたの考えに近い番号に1つずつ○)**

※ここでの「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます。

	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない
A. 平手で打つ	1	2	3
B. 足でける	1	2	3
C. 身体を傷つける可能性のある物でなぐる	1	2	3
D. なぐるふりをして、おどす	1	2	3
E. 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3
F. 大声でどなる	1	2	3
G. 他の異性との会話やメールを許さない	1	2	3
H. 何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3
I. 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3
J. 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う	1	2	3
K. 家計に必要な生活費を渡さない	1	2	3
L. 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	1	2	3
M. 家族や友人との関わりを持たせない	1	2	3
N. 嫌がっているのに性的な行為を強要する	1	2	3
O. 避妊に協力しない	1	2	3

門8 問7において、A～Oのいずれかで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と回答された方にお聞きします。
そのように思ったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 夫婦間ではよくあることだと思うから
2. 夫婦間では許されると思うから
3. 夫婦喧嘩の範囲だと思うから
4. 自分の考えをとおすために必要な場合があると思うから
5. 相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから
6. 夫婦なら、相手の行動や交友関係を知るのは(知られるのは)当たり前だと思うから
7. 一家の大黒柱のすることには従うべきだと思うから
8. 愛情表現だと思うから
9. 暴力を振るわれた側にも非があったと思うから
10. その他 ()

問9 配偶者等からの暴力に対して、予防・対策のために奈良県が取り組んでいることのうち、あなたが知っているものをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 奈良県中央こども家庭相談センター(配偶者暴力相談支援センター)、奈良県高田こども家庭相談センター、奈良県女性センターでの相談
2. センター等でのDVからの避難のための支援
3. 中央こども家庭相談センターでのDV被害者の生活再建に向けた支援
4. DV被害者やその子ども等に対する心理的ケア
5. 女性への暴力防止に向けたセミナー
6. 高校生等を対象にしたDV予防啓発の出前授業
7. DV相談窓口周知用カードの設置
8. その他 ()
9. 知らない

配偶者等からの暴力についてお伺いします。

【被害経験について】

問 10 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手などから問7のA～Oのような行為を受けた経験がありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 経験あり	2. 経験なし → 問 20 へ
---------	------------------

問 11 問 10 で「1.経験あり」と回答された方にお聞きします。

相手から、どのような行為を受けた経験がありますか。

(A～Dそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○)

	まったく ない	1、2度 あった	何度も あった
A. 身体的暴力 (例：なぐったり、けったり、物を投げつけたり等)	1	2	3
B. 心理的攻撃 (例：人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長時間無視する等)	1	2	3
C. 経済的圧迫 (例：生活費を渡さない、外で働くことを妨害される等)	1	2	3
D. 性的強要 (例：いやがっているのに性的な行為を強要される、避妊に協力しない等)	1	2	3

問 12 問 10 で「1.経験あり」と回答された方にお聞きします。

あなたはこれまでに、相手から受けた問7または問11の行為によって、生活が変わりましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 夜、眠れなくなった	9. 別居した
2. 心身に不調をきたした (具体的に)	10. 携帯電話の電話番号やメールアドレス、SNSのアカウントを削除した・変えた
3. 医療機関を受診し、精神疾患と診断された	11. 仕事(アルバイト)をしばらく休んだ・やめた・転職した
4. 自分に自信がなくなった	12. 学校・大学をしばらく休んだ・やめた・転校した
5. 誰のことも信じられなくなった	13. 生きているのが嫌になった・死にたくなった
6. 外出するのが怖くなった	14. 加害者や被害時の状況を思い出させるようなことがきっかけで、被害を受けたときの感覚がよみがえる
7. 異性と会うのが怖くなった	15. その他 ()
8. 人づきあいがうまくいかなくなった	16. 特にない

問 18 問 10 で「1.経験あり」と回答された方にお聞きします。

あなたは、相手から、現在も、問 11 の A～D のような行為を受けていますか。

(あてはまるもの 1 つに○)

1. 現在は、受けていない

2. 現在も、受けている → 問 20 へ



問 19 問 18 で「1.現在は受けていない」と回答された方にお聞きします。

問 11 の A～D のような行為を受けなくなった理由は何だと思えますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 相手と別れ（離婚）したことで、
会うことがなくなった

2. 警察に被害届を提出した

3. 一時期、距離を置いた

4. 親族・知人が仲裁に入った

5. 奈良県中央こども家庭相談センター
(配偶者暴力相談支援センター)、
奈良県高田こども家庭相談センターや、
奈良県女性センターへ相談した

6. その他

7. 特に理由はない

【加害経験について】

問 20 あなたはこれまでに、あなたの配偶者や交際相手に対して、問 7 の A～O のような行為を行った経験がありますか。(あてはまるもの 1 つに○)

1. 経験あり

2. 経験なし → 問 25 へ

問 21 問 20 で「1.経験あり」と回答された方にお聞きします。

相手に対して、具体的にどのような行為を行いましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 平手で打つ
2. 足でける
3. 身体を傷つける可能性のある物でなぐる
4. なぐるふりをして、おどす
5. 刃物などを突きつけておどす
6. 大声でどなる
7. 他の異性との会話やメールを許さない
8. 何を言っても長期間無視し続ける
9. 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する
10. 「誰のおかげで生活できているんだ」とか、「かいしょうなし」と言う
11. 家計に必要な生活費を渡さない
12. 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する
13. 家族や友人との関わりを持たせない
14. 嫌がっているのに性的な行為を強要する
15. 避妊に協力しない
16. その他 ()

問 22 問 20 で「1.経験あり」と回答された方にお聞きします。

あなたが、問 21 で選択したような行為を行った理由またはきっかけは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. ついカッとなってやってしまった
2. 相手の間違いを正そうとした
3. 仕事や日常生活のストレスが溜まっていた
4. 酒を飲んでいて
5. 相手が自分に対して危害を加えてきたので身を守ろうとした
6. 相手がそうされても仕方のないことをした
7. 親しい関係のためこうした行為は当然のことだと思っていた
8. コロナ禍の影響で、家にいる機会が増えた
9. その他 (
10. 特に理由はない

問 23 問 20 で「1.経験あり」と回答された方にお聞きします。

あなたは、現在も、問 21 で選択したような行為を行っていますか。

(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1. 現在は、行っていない | 2. 現在も、行うことがある → 問 25 へ |
|---------------|-------------------------|



問 24 問 23 で「1. 現在は、行っていない」と回答された方にお聞きします。

問 21 で選択したような行為を行わなくなった理由は何だと思えますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 相手と別れ（離婚）したことで、会うことがなくなった
2. 警察に被害届が提出された
3. 一時期、距離を置いた
4. 親族・知人が仲裁に入った
5. 奈良県中央子ども家庭相談センター（配偶者暴力相談支援センター）、奈良県高田子ども家庭相談センターや、奈良県女性センターへ被害者が相談した
6. その他 ()
7. 特に理由はない

その他

問 30 配偶者などからの暴力を受けた被害者への支援について、どのようなことが重要と思われますか。(あてはまるものをすべてに○)

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1. 地域の中で身近に相談できる窓口 | 9. 一時的に加害者から逃れられる場 |
| 2. 夜間や休日など、いつでも相談できる窓口 | 10. 加害者から離れて暮らすための住宅の確保 |
| 3. 同性の相談員など、相談しやすい窓口 | 11. 加害者から離れて暮らすための経済的な支援 |
| 4. 法律の制度などの専門的な相談窓口 | 12. 就業支援 |
| 5. 同じような悩みを抱えた人たちと話せる場 | 13. 警察官などによる介入 |
| 6. 心のケアのためのカウンセリング | 14. 加害者への更生に向けた働きかけ |
| 7. 子どもの心のケア | 15. その他 () |
| 8. 子どもの保育や教育への支援 | |

問 31 あなたは、悩みや心配事（DVにかかわらず）があるとき、身近に相談ができる人がいますか。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 身近に相談できる人がいる | 2. 身近にはいないが相談できる人がいる |
| 3. 相談できる人はいない | 4. わからない |

問 32 配偶者等からの暴力について、ご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。
(自由記入)

問 38 あなたと同居している人は誰ですか。あなたからみた続柄を選んでください。

(あてはまるものすべてに○)

※選択肢3番・4番・9番・10番・12番の()内には、具体的な人数もご記入ください。

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 夫または妻 (事実婚を含む) | 7. 義父 |
| 2. パートナー (交際相手など親密な関係にある者) | 8. 義母 |
| 3. 子ども (人) | 9. 祖父母 (人) |
| 4. 孫 (人) | 10. 兄弟・姉妹 (人) |
| 5. 実父 | 11. 一人暮らし |
| 6. 実母 | 12. その他 (人) |

問 39 あなたは、現在、結婚していますか。(あてはまるもの1つに○)

※ここでの「結婚」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます。

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| 1. 未婚 (結婚したことはない) | 2. 既婚 (現在、夫または妻がいる) |
| 3. 離別・死別 (結婚していたが、離婚・死別した) | |

～アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。～